

近世譜 數字譜 对照



江都 斗酒庵 校

はじめに

1

本稿は鎮木溪菴著『清風雅譜』（序・安政6）収録の清楽曲譜・31曲を、原譜とその付点をもとに作成した近世譜・数字譜を対照させ、演奏の用に足る資料としてまとめたものである。

楽曲原譜の画像には筆者手持ちの『清風雅譜』（須原屋版 明治17年刊）を用いているが、近世譜や数字譜は、筆者が他の版や資料と照らし合わせて校合したものをもとにしている。

溪派の付点譜の読み解き方や、各楽曲の詳しい校合過程・解説については、筆者のHPなどをご参照願いたい。ここでは近世譜・数字譜の読み方について簡単に説明しておこう。

原書の楽曲は「工尺譜（こうせきふ／こうしゃくふ）」によって書かれている。「工尺譜」は中国で発明された文字譜の一種で、漢字を記号として音階を記述したものである。見えない音を、日本人が「イロハ…」西洋人が「ABC…」や「ドレミ…」に置き換えたのと同じで、中国は漢字の国であるから漢字に置き換えたわけである。

工尺譜・数字譜の符号の順番と、その対応する音階は以下のとおり――

工尺譜 合 四 乙 上 尺 工 凡 六 五 乙 仕 伋 仵 …

音 階 ソ ラ シ ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ …

数字譜 5 6 7 1 2 3 4 5 6 7 1̇ 2̇ 3̇ …

便宜上「上＝ド＝1」として記述しているが、明治のころの清楽の明笛に合わせた場合は「合」がB^b～B、「上」がE^b～E、「工」がGの20～30%ほど低いあたりとなる。

この並びだと「合・四」と「六・五」はオクターブの関係にあるわけだが、月琴は最低音が「上」なので「合・四」の符はすべて「六・五」として弾く。

また明笛は最低音が「合」であるので「合・四」と「六・五」はそのままオクターブの高低をつけて吹くが、「合・四」に隣り合わせた、また「合・四」のあるフレーズには含まれた「仕」以上の高音はニンベンをはずして1オクターブ下の音で吹いていたようだ。また日本の清楽譜では「乙」の音に高低のつけられていることがほとんどない（中国では「一・乙」と記号が分かれる）のだが、それもこれと同様に、使用する楽器の音階や、隣り合う符や同じフレーズ内にある符の高低によって選択していたようである。

はじめに

2

数字譜は明治のころ西洋からもたらされた簡便な楽譜で、ドレミ…を1 2 3…と数字に置き換えたものである。1つの数字が1拍、のばす場合には「ー」をつけ、休符は「0」、4分以下、8分音符は数字の下に下線、16分の場合は2重下線が引かれる。真ん中の「1（＝ド）」より低い音は数字の下に、「7（＝シ）」より高い音には数字の上に点が打たれる。

筆者の用いている近世譜は、この数字譜をもとに開発されたもので、工尺譜をより簡便に読み解きやすくするため明治のころに開発された法を用いている。簡単に言うてしまうなら、数字譜の数字を工尺譜の漢字記号に置き換えただけのもの、2種の記譜法を試みにドレミに置き換えたものと並べると以下のようなになる。

（例）

エー尺工 | 六ー一五 | 上ー一〇 |

3ー2 3 | 5ー一6 | 1ー一〇 |

ミーレミ | ソー一ラ | ドー一〇 |

韻 頭(イントウ)

(普)

上尺 上尺 | エ〇 工尺 | 工尺 六〇 | 工六 工六 |
五〇 六五 | 六工 尺〇 | 尺工 尺上 | 四〇 四上 |
尺上 尺〇 |

(緩)

上—尺— | 上—尺— | エ—〇 | エ—尺— |
工—尺— | 六—〇 | 工—六— | 工—六— |
五—〇 | 六—五— | 六—工— | 尺—〇 |
尺—工— | 尺—上— | 四—〇 | 四—上— |
尺—上— | 尺—〇 |

1 2 1 2 | 3 〇 3 2 | 3 2 5 〇 | 3 5 3 5 |
6 〇 5 6 | 5 3 2 〇 | 2 3 2 1 | 6 〇 6 1 |
2 1 2 〇 |

1—2— | 1—2— | 3—〇 | 3—2— |
3—2— | 5—〇 | 3—5— | 3—5— |
6—〇 | 5—6— | 5—3— | 2—〇 |
2—3— | 2—1— | 6—〇 | 6—1— |
2—1— | 2—〇 |

ごく初心の練習曲。合奏のさいの音合わせなどとして使われる小曲。
通常は(普)のように付点されるが、初心者用に拍子の間をあけ(緩)の
ようになっている場合もある。
どちらでもいいが、後者のほうが拍子に合わせやすくラク。

尺	上	上	韻 頭
工	尺	尺	
上	上	尺	
四	工	工	
上	尺	尺	
尺	工	工	
上	尺	尺	
尺	工	工	
上	尺	尺	
尺	上	上	

韻頭環(イントウクワン)

エー工四 | 尺工上ー | 合ー一四 | 仕ー一四 |
 仕ー一〇 | 工六工尺 | 上ー尺工 | 工ー四尺 |
 上ー合四 | 仕ー一〇 | 四ー仕ー | 仕ー一四 |
 合ー一四 | 合ー一〇 |

3-3 6̣ | 2 3 1- | 5̣- - 6̣ | ị- - 6̣ |
 ị- - 〇 | 3 5 3 2 | 1- 2 3 | 3- 6̣ 2 |
 1- 5̣ 6̣ | ị- - 〇 | 6̣- ị- | ị- - 6̣ |
 5̣- - 6̣ | 5̣- - 〇 |

初心の練習曲。

笛は「六」のみ甲音。「合・四」にはさまれた「仕」は
 オクターブ下の「上」として吹く。

四 合	尺 上 合 四 仕 四 仕 仕 四 合	仕 工 六 工 尺 上 尺 工 仕 四	工 工 四 尺 工 上 合 四 仕 四	韻頭環
--------	--	--	--	-----

韻頭串 (イントウクワン)

[尺工^上尺^上 | 四上工四 | 上――〇] 四上工六 |
尺――〇 | 四仕工六 | 尺工^上尺^上 | 四^合四仕^上 |
上――〇 | 五六工六 | 五^上六^上 | 尺――〇 |

[2 3 2 3 1 | 6̣ 1 3 6̣ | 1――〇] 6̣ 1 3 5 |
2――〇 | 6̣ 1̣ 3 5 | 2 3 2 3 1 | 6̣ 5 6̣ 1̣ 2 |
1――〇 | 6 5 3 5 | 6 1̣ 5 3 5 | 2――〇 |

一部の音長が本よってまちまちなので、
あまり弾かれなかった曲だったかも
しれない

韻頭串				
尺。	上。	尺。	又。	尺。
五	工	工	四	工
六	尺	上	上	尺
工	上	工	六	工
六	六	六	尺。	上
五	五	四	四	四
仕	仕	合	仕	上
六	六	四	工	四
工	工	仕	六	上。
六	六	尺		

算命曲 (サンメイキョク)

上—— | 尺—エ— | 六—— | エ—— |
 エ—六— | エ—上— | 尺—— | 尺—— |
 尺—六— | エ—エ— | 上—エ六 | 尺—— |
 [四—尺— | 上—四— | 合—— | 合——]

1—— | 2—3— | 5—— | 3—— |
 3—5— | 3—1— | 2—— | 2—— |
 2—5— | 3—3— | 1—3 5 | 2—— |
 [6—2— | 1—6— | 5—— | 5——]

単純な曲調なので、ゆっくり弾けば練習曲にもなる。
 清朝のコミック・ソングなので、ほんらいは軽快に。
 最後の繰り返しところが、流派によって異なる。

算命曲

Handwritten musical notation for '算命曲' (Sanmeikyoku) on a four-staff manuscript. The notation uses Japanese characters (四, 尺, 上, 六, 合) with red dots indicating pitch and rhythm. The rightmost staff is the title '算命曲'. The other three staves contain the melody. The notation is written vertically from top to bottom.

九連環(キウレンクワン)

上ー工ー | 尺ーー〇 | 工ー四上 | 尺工上四 |
 合ー合四 | 仕ー仕合 | 四ーー〇 | 四仕四仕 |
 四ー仕四 | 合ーー〇 | 四合四仕 | 合ーー〇 |
 工ー工ー | 尺工六ー | 五六工尺 | 上ーー尺 |
 上ーー〇 |

1-3- | 2--〇 | 3-6 1 | 2 3 1 6 |
 5-5 6 | 1-1 5 | 6--〇 | 6 1 6 1 |
 6-1 6 | 5--〇 | 6 5 6 1 | 5--〇 |
 3-3- | 2 3 5- | 6 5 3 2 | 1--2 |
 1--〇 |

清楽でいちばん有名な曲。

弾くのに慣れてきたら、歌もつけてみよう！

「上 尺 工」までを1オクターブ上げ、「合・四」(低)

と「六・五」(高)を分けて弾くとウラ曲になります。

月琴は数字譜の下点を無視で、明笛は「1」の上点を無視で演奏のこと。

尺 上	工 工 尺 工 六 五 六 工 尺 上	仕 四 仕 四 合 四 合 四 仕 合	合 合 四 仕 仕 合 四 四 仕 四	上 工 尺 工 四 上 尺 工 上 四	九連環
--------	--	--	--	--	-----

茉梨花(マツリクワ)

[エー工合 | 四一仕四 | 合一一四 | 合一一〇 |]
 工一合合 | 工合四一 | 仕四合一 | 一〇工一 |
 尺一工六 | 工尺上一 | 一尺上一 | 一〇[工一 |
 上一尺一 | 尺工六一 | 五一仕五 | 六〇尺工 |
 六一五六 | 工尺上一 | 上一一〇 | 四上尺一 |
 尺工上尺 | 上四合一 | 一四合一 | 一〇]

[3-3 5 | 6-1 6 | 5--6 | 5--〇 |]
 3-5 5 | 3 5 6- | 1 6 5- | 一〇3- |
 2-3 5 | 3 2 1- | 一2 1- | 一〇[3- |
 1-2- | 2 3 5- | 6-1 6 | 5〇2 3 |
 5-6 5 | 3 2 1- | 1--〇 | 6 1 2- |
 2 3 1 2 | 1 6 5- | 一6 5- | 一〇]

いまま中国で歌われている曲。(歌詞と後半違うけど)
 途中から拍子が半小節ズレると、繰り返しの指示に
 注意。

尺	六	尺	尺	工	工
工	五	尺	工	合	工
上	六	工	六	合	合
尺	工	六	工	合	四
上	尺	五	尺	仕	仕
四	上	仕	上	四	四
合	上	五	尺	仕	合
四	四	六	上	四	四
合	上	尺	上	合	合
又	尺	工	上	工	又

茉梨花

1 厦門流水ノ如意串 (アモイリュウスイノニヨイクワン)

(厦) エー六ー | エー工六 | 尺工上合 | 尺ーー〇 |
 (如) エー尺ー | 五六工六 | 上ー工六 | 尺ーー〇 |
 (厦) エー六ー | エー工六 | 尺工上合 | 四ーー〇 |
 (如) エー五ー | 六ー工六 | 尺上四合 | 四ー仕〇 |
 (厦) 尺工上合 | 尺ーー〇 | 尺工上合 | 四ーー〇 |
 (如) 尺工四上 | 尺工尺上 | 四合工合 | 四ー四仕 |
 (厦) 合ー合四 | 合四合ー | 合ーー〇 | 合ー合四 |
 (如) 六ー五ー | 六ー工五 | 六ー五ー | 六ーー〇 |
 (厦) 合四合ー | 合ーー〇 | 工ー尺尺 | 上ーー〇 |
 (如) 俣ー俣仕 | 合ー合四 | 仕ー合四 | 仕ー俣〇 |
 (厦) 尺尺工ー | 上ーー〇 | 尺尺上ー | 四ーー〇 |
 (如) 四ー四ー | 仕ー合ー | 尺工上ー | 四ー四仕 |
 (厦) 四ー乙ー | 乙ー四乙 | 合ー合四 | 合ー合ー |
 (如) 合四乙ー | 乙ー四乙 | 合ー合四 | 合ー合〇 |
 (厦) 乙ー四乙 | 合四仕〇 | 工六工尺 | 上ーー〇 |
 (如) 乙尺四ー | 合四仕ー | 工六工尺 | 上ーー〇 |

「如意串」は「厦門流水」のウラ曲。

二曲を同時に演奏することでアンサンブルとなるように出来ている。



厦門流水／如意串

いつものように月琴は「5・6」の下点を無視。明笛は下点「5・6」にはさまれた「1̇・2̇・3̇」の上点は無視して吹く。

曲の印象は「如意串」のほうが強いので、1対1で合奏する際には「如意串」のほうを気持ち押さえ気味に。
 多人数で合奏の時は「厦門」3「如意」1くらいがちょうどいい。

(厦)	3	—	5	—		3	—	3	5		2	3	1	5		2	—	—	○	
(如)	3	—	2	—		6	5	3	5		1	—	3	5		2	—	—	○	
(厦)	3	—	5	—		3	—	3	5		2	3	1	5		6	—	—	○	
(如)	3	—	6	—		5	—	3	5		2	1	6	5		6	—	1̇	○	
(厦)	2	3	1	5		2	—	—	○		2	3	1	5		6	—	—	○	
(如)	2	3	6	1		2	3	2	1		6	5	3	5		6	—	6	1̇	
(厦)	5	—	5	6		5	6	5	—		5	—	—	○		5	—	5	6	
(如)	5	—	6	—		5	—	3	6		5	—	6	—		5	—	—	○	
(厦)	5	6	5	—		5	—	—	○		3	—	2	2		1	—	—	○	
(如)	2̇	—	2̇	3̇		5	—	5	6		1̇	—	5	6		1̇	—	2̇	○	
(厦)	2	2	3	—		1	—	—	○		2	2	1	—		6	—	—	○	
(如)	6	—	6	—		1̇	—	5	—		2	3	1	—		6	—	6	1̇	
(厦)	6	—	7	—		7	—	6	7		5	—	5	6		5	—	5	—	
(如)	5	6	7	—		7	—	6	7		5	—	5	6		5	—	5	○	
(厦)	7	—	6	7		5	6	1̇	○		3	5	3	2		1	—	—	○	
(如)	7	2	6	—		5	6	1̇	—		3	5	3	2		1	—	—	○	

月花集(ゲツクワシウ)

四――― | 四―合― | 四――― | 四―一仕 |
 促――仁 | 仕――〇 | 四―四― | 仕―合工 |
 合―合四 | 仕―四― | 合――― | ――〇 |
 尺――― | 尺―尺工 | 六―五六 | 工―尺― |
 上―上工 | 尺工上四 | 合――― | ――〇 |
 [合―合四 | 仕―四― | 合四仕― | 四仕四合 |
 工―工― | 五六工尺 | 六――― | 六―〇]

付点からそのまま近世譜に落とすと、やたら長い音が目立つゆったりとした調子の曲となるが、これはメロディの一部に、漢派の付点法では表現の難しい箇所があったため。全体の音を均等に延ばして、読み解きやすくしたもの。実際の演奏は、以下のようなものであったろう。

四―四合 | 四―四―仕 | 促―仁仕〇 | 四四仕合工 |
 合合仕四 | 合――〇 | 尺―尺尺工 | 六五六工尺 |
 上上工尺上四 | 合――〇 | [合合仕四 | 合仕四合 |
 工工五六工尺 | 六―六〇]

工 五 六 工 尺 六 六 又	四 仕 四 合 四 仕 四 仕 四 合	上 工 尺 工 上 四 合 〔合 合	尺 尺 工 六 五 六 工 尺 上	四 仕 合 工 合 合 四 仕 四 合	四 四 合 四 四 仕 促 仁 仕 四	月 花 集
--------------------------------------	--	--	---	--	--	-------------

月花集（ゲツクワシウ）

2

別名を「紅繡鞋（ホンシウアイ）」という。
歌詞の内容は、赤い縫い取り靴を一足
二足…と数えながら節句ごとの「赤いも
の」を並べてあげてゆくもの。

「紅繡鞋」は結婚式するときなどに花嫁
が穿く靴で、中国では「鞋（とくに脱が
された）」は、女性を暗示するエロティ
ックな表象のひとつである。

歌詞がそういう隠語めいた艶歌に解釈
できるため、この曲には清朝の間に何度
か禁令が出ている。清代の「放送禁止歌」
みたいなものである。

そこからも清楽家が勘違いしやすいよ
うに、情感を込めてねっとり弾くよう
なものではなく、ごく軽快で賑やかに演
奏する曲であつたろうことはうかがい知
れよう。

6 — — — | 6 — 5 — | 6 — — — | 6 — — 1̣ |
2̣ — — 3̣ | 1̣ — — O | 6 — 6 — | 1̣ — 5 3 |
5 — 5 6 | 1̣ — 6 — | 5 — — — | — — — O |
2 — — — | 2 — 2 3 | 5 — 6 5 | 3 — 2 — |
1 — 1 3 | 2 3 1 6 | 5 — — — | — — — O |
[5 — 5 6 | 1̣ — 6 — | 5 6 1̣ — | 6 1̣ 6 5 |
3 — 3 — | 6 5 3 2 | 5 — — — | 5 — — O]

6 — 6 5 | 6 — 6 — 1̣ | 2̣ — 3̣ 1̣ O | 6 6 1̣ 5 3 |
5 5 6 1̣ 6 | 5 — — O | 2 — 2 2 3 | 5 6 5 3 2 |
1̣ 1̣ 3 2 3 1̣ 6 | 5 — — O | [5 5 6 1̣ 6 | 5 6 1̣ 6 1̣ 6 5 |
3 3 6 5 3 2 | 5 — 5 O]

久聞歌(キウブンカ)

四上 | 尺一四仕 | 合一一四 | 合一一〇 |
 尺一四上 | 尺一一〇 | 尺工上四 | 合一一〇 |
 尺一尺一 | 工六工工 | 尺上四仕 | 合一一〇 |
 [合一合四 | 仕一四仕 | 合一一四 | 合一一〇] |
 尺一尺工 | 上—上合 | 四—尺工 | 上—四工 |
 合一一四 | 合一一〇 |

6 1 | 2 - 6 1̣ | 5 - - 6 | 5 - - 〇 |
 2 - 6 1 | 2 - - 〇 | 2 3 1 6 | 5 - - 〇 |
 2 - 2 - | 3 5 3 3 | 2 1 6 1̣ | 5 - - 〇 |
 [5 - 5 6 | 1̣ - 6 1̣ | 5 - - 6 | 5 - - 〇] |
 2 - 2 3 | 1 - 1 5 | 6 - 2 3 | 1 - 6 3 |
 5 - - 6 | 5 - - 〇 |

ウラ拍子からはじまる。

弾いてみてメロディに違和感があるのは、もともと歌と台詞をあざえた芝居仕立ての曲だから。器楽曲ではないので、月琴でただ弾いても面白くない。

合 四 合。	工 上 上 合。 四 尺 工 上 四 工	四 仕 四 仕 合 四 合。 又。 尺 尺	六 工 工 尺 上 四 仕 合。 合 合	上 尺。 尺 工 上 四 合。 尺 尺 工	四 上 尺 四 仕 合 四 合。 尺 四	久聞歌
--------------	---	--	---	--	---	-----

漫板流水(マンパンリウスイ)

[俣一俣仁 | 合一合四 | 仕一合四 | 仕一仕〇 |]

四仕合一 | 工一合一 | 俣一俣仁 | 合一合一 |
俣仁合〇 | 四合仁俣 | 仕一合四 | 仕一仕〇 |

俣一俣仁 | 合一合四 | 仕一合四 | 仕一仕〇 |
四仕合一 | 工一合一 | 尺一尺工 | 合四合一 |
尺工合〇 | 四合工尺 | 上一合四 | 仕一仕〇 |

俣一俣仁 | 合一合四 | 仕一合四 | 仕一仕〇 |
仕一四合 | 仕一仕〇 | 仁一仕一 | 俣六仁仁 |
仁俣仁仁 | 俣仁合合 | 四合仁俣 | 仕一合四 |
仕一仕〇 |

俣一俣仁 | 合一合四 | 仕一合四 | 仕一仕〇 |
四仕合一 | 工一合一 | 尺一尺工 | 合四合一 |
尺工合〇 | 四合工尺 | 上一合四 | 仕一仕〇 |

俣一俣仁 | 合一合四 | 仕一合四 | 仕一仕〇 |
仕一四合 | 仕一仕〇 | 仁一仕一 | 合乙四四 |
四合四四 | 合四仕仕 | 四仕四合 | 工一工〇 |
合四合一 | 尺一尺工 | 合四合一 | 尺工合〇 |
四合工尺 | 上一合四 | 仕一仕〇 |



漫板流水(マンパンリウスイ)

$\dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$
 $\dot{1}-\dot{6}\dot{5} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid \dot{3}-\dot{1}- \mid \dot{5}\dot{7}\dot{6}\dot{6} \mid$
 $\dot{6}\dot{5}\dot{6}\dot{6} \mid \dot{5}\dot{6}\dot{1}\dot{1} \mid \dot{6}\dot{1}\dot{6}\dot{5} \mid \dot{3}-\dot{3}\text{O} \mid$
 $\dot{5}\dot{6}\dot{5}- \mid \dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}\dot{6}\dot{5}- \mid \dot{2}\dot{3}\dot{5}\text{O} \mid$
 $\dot{6}\dot{5}\dot{3}\dot{2} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$

「漫波流水」とも。中国音楽における「漫板」とはスローテンポにゆっくり弾く指示となるが、おそらくそれとは関係がなく「漫奏」——自由に気ままにリズムやテンポを変えて、その変化を楽しむ曲であったと思われる。

$[\dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid]$
 $\dot{6}\dot{1}\dot{5}- \mid \dot{3}-\dot{5}- \mid \dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}-\dot{5}- \mid$
 $\dot{2}\dot{3}\dot{5}\text{O} \mid \dot{6}\dot{5}\dot{3}\dot{2} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$

$\dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$
 $\dot{6}\dot{1}\dot{5}- \mid \dot{3}-\dot{5}- \mid \dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}\dot{6}\dot{5}- \mid$
 $\dot{2}\dot{3}\dot{5}\text{O} \mid \dot{6}\dot{5}\dot{3}\dot{2} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$

$\dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$
 $\dot{1}-\dot{6}\dot{5} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid \dot{3}-\dot{1}- \mid \dot{2}\dot{5}\dot{3}\dot{3} \mid$
 $\dot{3}\dot{2}\dot{3}\dot{3} \mid \dot{2}\dot{3}\dot{5}\dot{5} \mid \dot{6}\dot{5}\dot{3}\dot{2} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid$
 $\dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$

$\dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$
 $\dot{6}\dot{1}\dot{5}- \mid \dot{3}-\dot{5}- \mid \dot{2}-\dot{2}\dot{3} \mid \dot{5}\dot{6}\dot{5}- \mid$
 $\dot{2}\dot{3}\dot{5}\text{O} \mid \dot{6}\dot{5}\dot{3}\dot{2} \mid \dot{1}-\dot{5}\dot{6} \mid \dot{1}-\dot{1}\text{O} \mid$

四季曲(シキキョク)

上ー上工 | 尺ー四上 | 尺ー工ー | 尺ーー〇 |
 上ー上工 | 尺ー四仕 | ー四合ー | ー〇上ー |
 ーー尺ー | 工ー六ー | ーー工ー | ーー上ー |
 工ー尺ー | 四上尺ー | 工ー尺ー | ー〇[上ー |
 上工尺ー | 四仕ー四 | 合ーー〇 | 四仕四合 |
 工尺工〇 | 尺工六ー | 五六工尺 | 上ーー尺 |
 上ーー〇 ||

1-13 | 2-6 1 | 2-3- | 2-ー〇 |
 1-13 | 2-6 1 | ー6 5- | ー〇1- |
 ー-2- | 3-5- | ー-3- | ー-1- |
 3-2- | 6 1 2- | 3-2- | ー〇[1- |
 1 3 2- | 6 1-6 | 5-ー〇 | 6 1 6 5 |
 3 2 3 〇 | 2 3 5- | 6 5 3 2 | 1-ー2 |
 1-ー〇 ||

「四節曲」とも。

春夏秋冬君を想うというような歌詞がついている。
 分かりやすいメロディだが、「茉莉花」などと同じく
 曲の途中から拍子が半小節ズレるので、弾くときには
 リズムに気を付けて。

よく聞くと分かるが「九連環」と同じ系統、派生曲
 といってもいい。



散花楽(サンクワラク)

仝一六― | 仝一伋― | 五―五― | 仝一伋〇 |
 仝一伋― | 四―合― | 乙―四合 | 工―尺〇 |
 工―尺― | 工―尺― | 工―合工 | 尺―一〇 |
 四―仕― | 伋―仕― | 四―仕四 | 合―一〇 |
 工―合― | 工―合― | 工合工合 | 工―合〇 |
 仕―四― | 合工尺― | 工合四仕 | 伋―伋〇 |
 尺―尺〇 |

3-5- | 3-2- | 6-6- | 3-2〇 |
 3-2- | 6-5- | 7-6 5 | 3-2〇 |
 3-2- | 3-2- | 3-5 3 | 2-一〇 |
 6-1- | 2-1- | 6-1 6 | 5-一〇 |
 3-5- | 3-5- | 3 5 3 5 | 3-5〇 |
 1-6- | 5 3 2- | 3 5 6 1 | 2-2〇 |
 2-2〇 |

漢蓮斎の訂正版では出だしが「仝一伋― |
 仝一伋― | 伍―伍― | 仝一伋〇 |」と高音、連
 山派の譜もおおむね同じ。古い工尺譜では慣習
 的に「伋・伍」の符字を用いなかったようなので、
 実際演奏はそちらだったかもしれない。連山派
 では「さんわあろ」と読み「桀瓦磬」とも書く。

四 仕 伋 伋 尺 尺	合 工 合 仕 四 合 工 尺 工 合	仕 四 合 工 合 工 合 工 合 工	尺 工 合 工 尺 四 仕 伋 仕 四	四 合 乙 四 合 工 尺 工 尺 工	仝 六 仝 伋 五 五 仝 伋 伋 伋 伋	散 花 楽
----------------------------	--	--	--	--	---	-------------

平和調(ヘイワテウ)

OO四仕 | 四--O | 仕-仕合 | 俣任仕四 |
 合-工-合 | 四--O | 仕-仕四 | 合--O |
 四仕四合 | 工-合- | 合O仕俣 | 任-任任 |
 -合俣-合 | 俣任合O | 俣任俣仕 | 四O四-合 |
 工合四仕 | 四--O |

OO 6̣ 1̣ | 6̣--O | 1̣-1̣ 5̣ | 2̣ 3̣ 1̣ 6̣ |
 5̣-3̣-5̣ | 6̣--O | 1̣-1̣ 6̣ | 5̣--O |
 6̣ 1̣ 6̣ 5̣ | 3̣-5̣- | 5̣ O 1̣ 2̣ | 3̣-3̣ 3̣ |
 -5̣ 2̣-5̣ | 2̣ 3̣ 5̣ O | 2̣ 3̣ 2̣ 1̣ | 6̣ O 6̣-5̣ |
 3̣ 5̣ 6̣ 1̣ | 6̣--O |

「脚魚売」という歌曲のメロディ。

魚売りの女とお役所の下ッぴきの珍問答。単純なメロディで交互にくりかえすその問答が面白いのであって、器楽曲として弾いても聞いても、さほど面白くはない。

平和調

四。 四。 合 工。 合 四。 仕 四。	合 俣 合 俣 任 合。 俣 任 任 任 任 任 任 仕	四。 合 工。 合 合。 仕 俣 任 任 任 任 任 任 仕	合 工。 合 四。 仕 仕 仕 四 合。 四 仕	四。 仕 四。 任 仕 仕 合 俣 任 仕 仕 仕 仕 四
---	---	---	--	--

魚心調(ギョシンチャウ)

魚心調

尺 一 六 一 六 尺。	工 工。 尺 工 尺。 六 工 六 尺。 上	乙 乙 四 合 工 工。 合 乙 四 合	尺 乙 四 乙 乙 四 合 四 合 合	合 合。 四 乙 工 合 工 尺 工 尺	工 尺 尺 乙 四 乙 乙 四 合 四	工 合 四 乙 合 乙 四 四 工 尺	尺 上 四 合 四。 四 乙 四 四 合	上 尺 尺 工 六 五 六 工 尺 工	六 尺 尺 尺 尺 工 六 尺。 工 尺	六 五 六 六 工 六 尺。 上 尺 工
-----------------------------	---	---	--	---	--	--	---	--	---	---

別名「猜花名」。中国に古くからある謎かけ歌が歌詞だが、原来のメロディではなく、何らかの芝居の中で、このメロディにのせて唱えられたものだろう。

5—6 | 5—5— | —3— | —5— |
 2— — | ——0 | 1—2 | 3—5— |
 2—2— | ——0 | 2—2— | —3— |
 —5— | 2— — | —03— | 2—1— |
 2—23 | 5—6— | 5—3— | 2—3— |
 2—1— | 6—5— | 6— — | ——0 |
 6—7— | 6—65 | 3—5— | 6757 |
 6—6— | —03— | 2—3 | 2—2— |
 —07— | —6— | 7— — | 7—6— |
 5—6 | 5—5— | —06— | 7—3— |
 5—0 | 3—2— | —32— | 2—0 |
 7— — | 6—7— | —7— | 6—5— |
 —65— | 5—0 | 7—7— | 6—5— |
 3—30 | 5—7— | 6—5— | 3—30 |
 2—3 | 2— — | ——0 | 5— — |
 3—5— | 2— — | ——0 | 1—23 |
 5—35 | 2— — | ——0 |

六—五 | 六—六— | —工— | —六— |
 尺— — | ——0 | 上—尺 | 工—六— |
 尺—尺— | ——0 | 尺—尺— | —工— |
 —六— | 尺— — | —0工— | 尺—上— |
 尺—尺工 | 六—五— | 六—工— | 尺—工— |
 尺—上— | 四—合— | 四— — | ——0 |
 四—乙— | 四—四合 | 工—合— | 四乙合乙 |
 四—四— | —0工— | 尺—工 | 尺—尺— |
 —0乙— | —四— | 乙— — | 乙—四— |
 合—四 | 合—合— | —0四— | 乙—工— |
 合—0 | 工—尺— | —工尺— | 尺—0 |
 乙— — | 四—乙— | —乙— | 四—合— |
 —四合— | 合—0 | 乙—乙— | 四—合— |
 工—工0 | 合—乙— | 四—合— | 工—工0 |
 尺—工 | 尺— — | ——0 | 六— — |
 工—六— | 尺— — | ——0 | 上—尺工 |
 六—工六 | 尺— — | ——0 |

1 徳健流水 (テケンリュウスイ)

合一 | 合一合四 | 仕一合四 | 仕一一〇 |
 [尺一一工 | 合一一四 | 仕一合四 | 仕一一〇 |
 四仕合一 | 工一合一 | 尺一一工 | 六五六一 |
 尺工六〇 | 五六工尺 | 上一合四 | 仕一一〇]

尺一一工 | 合一一四 | 仕一合四 | 仕一一〇 |
 四一合一 | 工一尺一 | 上一一〇 | 上四上一 |
 上一尺一 | 六一尺六 | 工一一〇 | 工尺工一 |
 尺工六〇 | 五六工尺 | 上一合四 | 仕一一〇 |

尺一一工 | 合一一四 | 仕一合四 | 仕一一〇 |
 四仕合一 | 工一合乙 | 四一一〇 | 四合四一 |
 合四仕一 | 四仕四合 | 工一工〇 | 六五六一 |
 尺一一工 | 六五六一 | 尺工六〇 | 五六工尺 |
 上一合四 | 仕一一〇 |

工尺上上四上上尺六尺	尺工合四仕合四仕四合	六工尺上合四仕	合尺工六五六尺工六五	合四仕合四仕四仕合工	合合合四仕合四仕尺工	徳健流水
------------	------------	---------	------------	------------	------------	------

工尺上合四仕	尺工六五六尺工六五	仕四仕四合工六五六	合工合乙四合四合四	尺工合四仕合四仕四仕	工尺上合四仕	六工尺工尺工六五六
--------	-----------	-----------	-----------	------------	--------	-----------

徳健流水(テケンリュウスイ)

5 - 5 - 5 6 i - 5 6 i - - O	2 - - 3 5 - - 6 i - 5 6 i - - O
[2 - - 3 5 - - 6 i - 5 6 i - - O	6 i 5 - 3 - 5 7 6 - - O 6 5 6 -
6 i 5 - 3 - 5 - 2 - - 3 5 6 5 -	5 6 i - 6 i 6 5 3 - 3 O 5 6 5 -
2 3 5 O 6 5 3 2 1 - 5 6 i - - O]	2 - - 3 5 6 5 - 2 3 5 O 6 5 3 2
	1 - 5 6 i - - O
2 - - 3 5 - - 6 i - 5 6 i - - O	
6 - 5 - 3 - 2 - 1 - - O 1 6 1 -	
1 - 2 - 5 - 2 5 3 - - O 3 2 3 -	
2 3 5 O 6 5 3 2 1 - 5 6 i - - O	

画像の17年版はオモテ拍子からになっているが、標準的な付点では出だしはウラ拍子になっている。
まあ独奏練習の場合はさして問題はない。

「徳健」は「林徳健」、清代の商人で鎮江派はこの人の孫弟子にあたる。直接指導を受けたわけではないが、ある意味派のルーツミュージックのひとつみたいなものである。林徳健が作ったものか、あるいはたんに彼の愛奏曲の一つだったのかは不明。このほかに彼に関係する「林氏流水」と題される曲もある。

哈哈調(ハハチヤウ)

[四一合一 | 四一仕一 | エ一四仕 | エ一〇 |
 エ一四仕 | 合一工六 | 尺一 | 〇 |]
 上ー上ー | 尺一 | 四一四一 | 仕一合〇 |
 仁一仁一 | 六一仁一 | 伏一仁六 | 伏一仕〇 |
 仕一伏仁 | 仕一四一 | エ一四仕 | 合一合〇 |
 エ一合一 | 合四仕一 | 四仕四仕 | 合一合一 |
 エ一合一 | 合四仕一 | 五六工六 | 尺一 |
 〇 |

[6-5- | 6-1- | 3-6 1 | 3-〇 |
 3-6 1 | 5-3 5 | 2- | 〇 |]
 1-1- | 2- | 6-6- | 1-5 〇 |
 3-3- | 5-3- | 2-3 5 | 2-1 〇 |
 1-2 3 | 1-6- | 3-6 1 | 5-5 〇 |
 3-5- | 5 6 1- | 6 1 6 1 | 5-5- |
 3-5- | 5 6 1- | 6 5 3 5 | 2- |
 〇 |

工 六 尺	仕 合 合 工 合 合 四 仕 五 六	合 合 工 合 合 四 仕 四 仕 四	伏 仕 仕 伏 仁 仕 四 工 四 仕	四 仕 合 仁 仁 六 仁 伏 仁 六	仕 合 工 六 尺 又 上 上 尺 四	四 合 四 仕 工 四 仕 工 四 四	哈哈調
-------------	--	--	--	--	--	--	-----

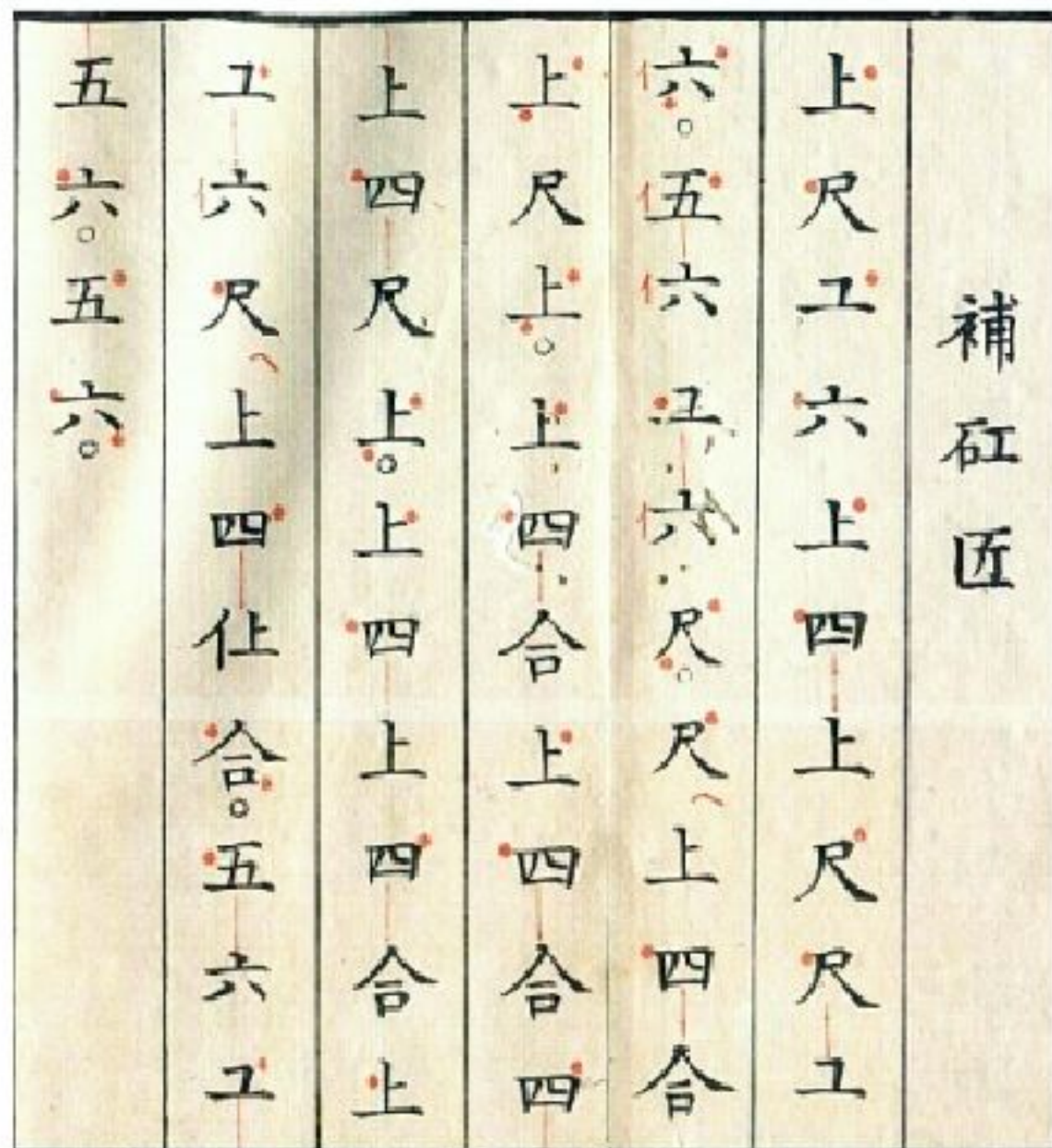
清明節のお散歩でふと見かわした顔と顔、医者も癒せぬ病とやらで、深窓の御令嬢は床のなか。そこへ隣の王お婆さん、粋な架け橋渡さんと、あれやこれやの大活躍——「王大姐探病」という芝居仕立ての歌の一部。曲題「哈哈調」は曲尾に入るコロラッチュオから。別名を「鉄馬行」、「鉄馬」は清朝の上流階級の婦人が穿いていた靴のこと。

補缸匠(ホコウシヨウ)

上ー尺ー | エー六ー | 上ー四上 | 尺ー尺工 |
 六ーー〇 | 五六工六 | 尺ーー〇 | 尺上四合 |
 上ー一尺 | 上ー一〇 | 上ー四合 | 上ー四合 |
 四上四尺 | 上ー一〇 | 上ー四上 | 四合上ー |
 工六尺上 | 四仕合ー | ー〇五六 | 工五六〇 |
 五ー六ー | ー〇 |

1-2- | 3-5- | 1-6 1 | 2-2 3 |
 5-ー〇 | 6 5 3 5 | 2-ー〇 | 2-1 6 5 |
 1-ー2 | 1-ー〇 | 1-6 5 | 1-6 5 |
 6 1 6 2 | 1-ー〇 | 1-6 1 | 6 5 1- |
 3 5 2-1 | 6 1 5- | ー〇 6 5 | 3 6 5 〇 |
 6-5- | ー〇 |

清楽の版だと、水がめの修理人と「王さん」が出会う
 ところで終わっているが、おそらくは「王大娘罎缸」と
 いう俗曲の類の出だし。筋書きはさまざまなれど、口の
 うまいぼてふりの水がめの修理人と王さん(大家の女
 主人だったり専婦だったり)との、すれすれトークや掛
 け合いを楽しむ芝居仕立ての歌。



金線花(キンセンクア)

(第一排)

尺_一六_一 | 五_一六_一 | 尺_一工_一上_一 | 尺_一—_一〇_一 |
 尺_一六_一工_一六_一 | 尺_一工_一上_一 | 尺_一—_一〇_一 | 上_一上_一尺_一—_一 |
 上_一工_一尺_一上_一 | 耻_一合_一〇_一上_一 | 尺_一—_一上_一〇_一 | 五_一六_一工_一六_一 |
 五_一六_一工_一六_一 | 尺_一—_一〇_一 | 尺_一上_一四_一尺_一 | 上_一—_一〇_一 |
 尺_一工_一尺_一上_一 | 耻_一合_一〇_一上_一 | 尺_一—_一上_一—_一 | 五_一六_一工_一六_一 |
 五_一六_一工_一六_一 | 尺_一—_一〇_一 |

2-3 5- | 6 3 5- | 2 3 3 1 | 2-—〇 |
 2-5 3 5 | 2 3 3 1 | 2-—〇 | 1 1 2- |
 1 3 2 1 | 6₁ 5₁ 〇 1 | 2-1 〇 | 6-5 3 5 |
 6-1 5 3 5 | 2-—〇 | 2-1 6 2 | 1-—〇 |
 2 3 2 1 | 6₁ 5₁ 〇 1 | 2-1- | 6-5 3 5 |
 6-1 5 3 5 | 2-—〇 |



3段からなる長編の歌もの。台詞は混じらず、歌唱だけで構成されている。

別名「秋江別(しゅうこうべつ)」、『玉簪記』の一場面。若き書生・潘必正は試験に落第し故郷で叔母の暮らす尼寺に寄宿することとなった。そこには互いに知らず、幼い頃の約束で許嫁となっていた陳嬌蓮が、陳妙常と名を変え身を寄せていた。互いの関係も知らぬ間に惹かれあう二人、だが潘必正は再度試験に挑戦するため都へ……二人に別れの日がやってくる…

1段めは3回リピート。潘必正の旅立ちを知った陳妙常は川岸まで駆けてくる。互いに締めきれぬもどかしさ、気持ちは行きつ戻りつ——ゆっくり弾く。

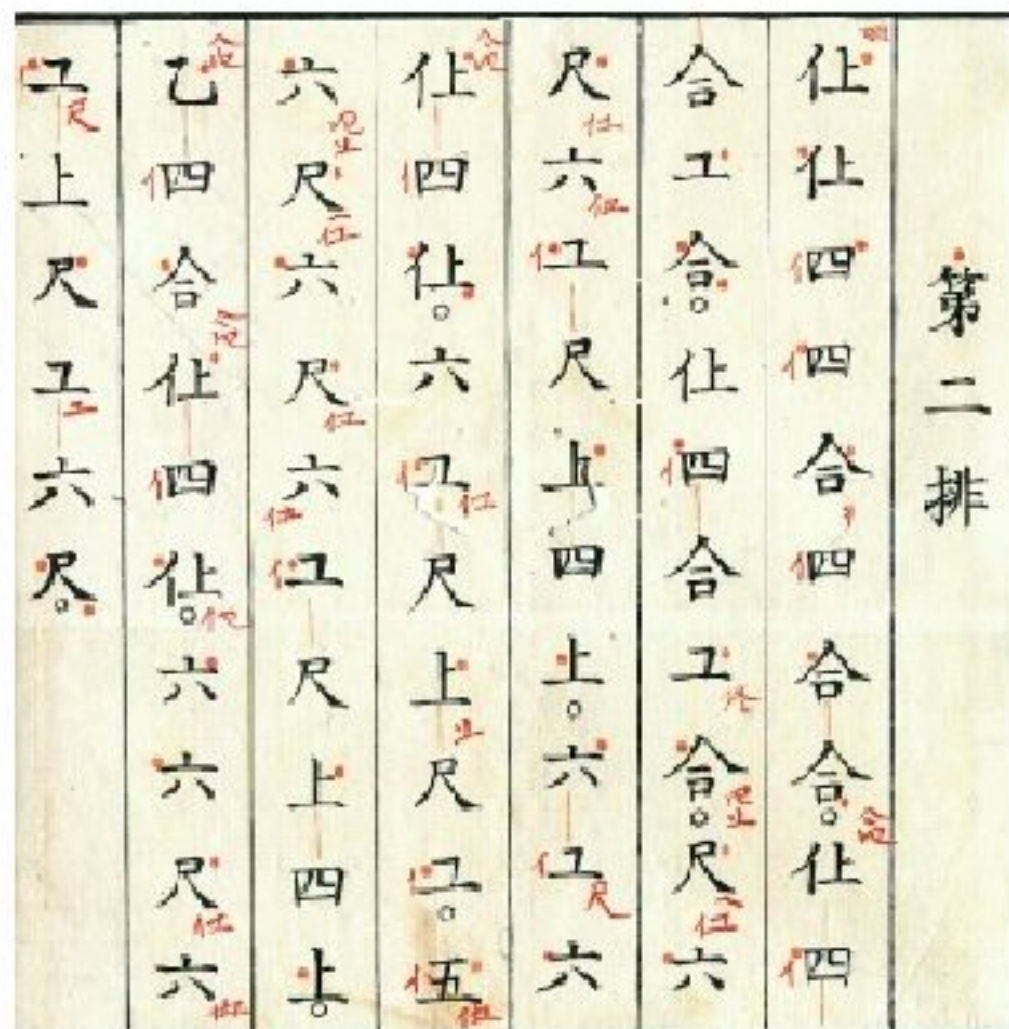
金線花(キンセンクア)

2

(第二排)

仕一仕一 | 四一四一 | 合_ニ合合 | O仕四合 |
 工一合一 | O仕四合 | 工一合O | 尺一六一 |
 尺_ニ工尺 | 上四上O | 六工六一 | 仕四仕一 |
 O六工尺 | 上尺工O | 五一六一 | 尺一六一 |
 尺_ニ工尺 | 上四上O | 乙四合一 | 仕四仕O |
 六一六一 | 尺_ニ工上 | 尺_ニ尺一 | -O |

i - i - | 6 - 6 - | 5 - 6 5 5 | O i 6 5 |
 3 - 5 - | O i 6 5 | 3 - 5 O | 2 - 5 - |
 2 - 5 3 2 | 1 6 1 O | 5 3 5 - | i 6 i - |
 O 5 3 2 | 1 2 3 O | 6 - 5 - | 2 - 5 - |
 2 - 5 3 2 | 1 6 1 O | 7 6 5 - | i 6 i O |
 5 - 5 - | 2 - 5 3 1 | 2 3 5 2 - | -O |



2段目は2回リピート。
 最初は陳姑、潘郎への想いに煩悶しつつもその成功を祈る。
 つづいて潘郎、泣くなわが君忘れない、と誓う。

1段目より心地早く。

金線花(キンセンクア)

(第三排)

四上尺上 | 尺一〇 | 六六工工 | 尺工尺上 |
 尺一〇 | 四上尺上 | 尺一〇 | 仕四仕一 |
 六五六〇 | 仕四仕一 | 六五六〇 | 五工六一 |
 五工六一 | 工六工上 | 尺一〇 |

6 1 2 3 1 | 2 一 〇 | 5 5 3 3 | 2 3 2 3 1 |
 2 一 〇 | 6 1 2 3 1 | 2 一 〇 | 1 6 1 一 |
 5 6 5 〇 | 1 6 1 一 | 5 6 5 〇 | 6 3 5 一 |
 6 3 5 一 | 3 5 3 5 1 | 2 一 〇 |

第3段目は3回リピート。

潘郎を乗せて遠去ってゆく船、滔々と流れる川の景色の中で、陳姑はひとり残された身を思う。

ふたたびゆっくりと、情感をこめて。



銀紐糸(ギンチウシ)

1

(第一排)

五一六一 | エ一六一 | 尺工四上 | 尺一一〇 |
 尺工六一 | 五工六一 | 尺工工上 | 尺一一〇 |
 上一上一 | 四一上一 | 四上四尺 | 上一一〇 |
 仕四仕一 | 四仕四合 | 工合四仕 | 合一一〇 |
 尺工六一 | 尺工六一 | 尺工工上 | 尺一一〇 |
 五乙五六 | エ一六〇 | 五仕五六 | エ一六〇 |
 尺一六一 | 尺六工尺 | 上一尺工 | 上一一〇 |

6-5- | 3-5- | 2 3 6 1 | 2--〇 |
 2 3 5- | 6 3 5- | 2 3 3 1 | 2--〇 |
 1-1- | 6-1- | 6 1 6 2 | 1--〇 |
 1 6 1- | 6 1 6 5 | 3 5 6 1 | 5--〇 |
 2 3 5- | 2 3 5- | 2 3 3 1 | 2--〇 |
 6 7 6 5 | 3-5〇 | 6 1 6 5 | 3-5〇 |
 2-5- | 2-5 3 2 | 1-2 3 | 1--〇 |



別名「雲間月」。

同じような出だして「高將軍」が出て来るので「翠寒英」という長曲と同じ内容を歌ったものだろうと思われる。宋代——「楊家将」あたりと関係する内容だろうとは思われるが、いまのところ詳細不明。

第1排は3回リピート。

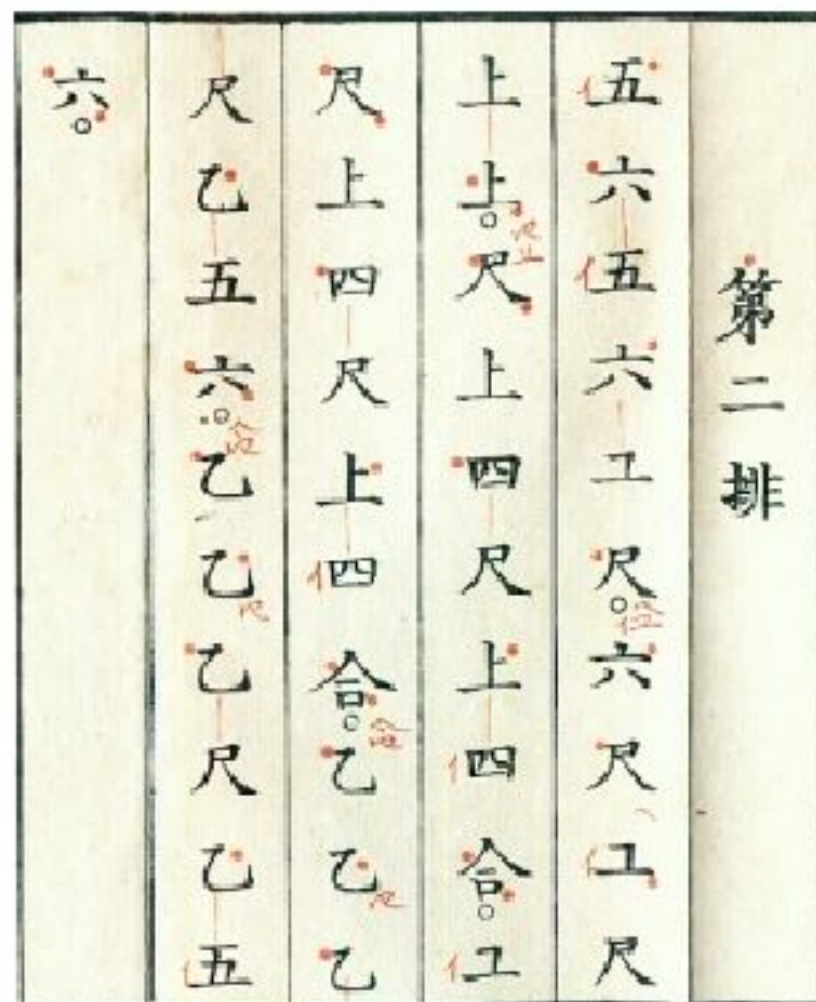
イケメンの若いのを思いながら、イヤな奴（高將軍）が来たらどうしよう、と思い悩む。

銀紐系（ギンチウシ）

（第二排）

五－六五 | 六工尺〇 | 六－尺工 | 上上上－ |
 －〇尺－ | －上四尺 | 上四合－ | 〇工尺－ |
 －上四尺 | 上四合－ | －〇乙－ | 乙－乙尺 |
 乙五六－ | －〇乙－ | 乙－乙尺 | 乙五六－ |
 －〇 |

6－5 6 | 5 3 2 〇 | 5－2 3 | 2 1 1－ |
 －〇 2－ | －1 6 2 | 1 6 5－ | 〇 3 2－ |
 －1 6 2 | 1 6 5－ | －〇 7－ | 7－7 2 |
 7 6 5－ | －〇 7－ | 7－7 2 | 7 6 5－ |
 －〇 |



第2排も3回リピート。

「桐の葉はらはら（梧桐梧桐葉落）」という子守歌にもあるフレーズを唱えて、彼の来ない日のさみしさを歌う。

銀紐糸（ギンチウシ）

（第三排）

五_工工_工ー | 工_六五_〇 | 五_工工_工ー | 工_六五_〇 |
 仕_ー工_ー | 工_ーー_〇 | 五_仕乙_六 | 五_〇五_工 |
 六_ー工_六 | 上_ー尺_ー | ー_〇 |

6₃3ー | 3 5 6 〇 | 6 3 3ー | 3 5 6 〇 |
 1ー 3ー | 3ーー_〇 | 6 1 7 5 | 6 〇 6 3 |
 5ー 3 5 | 1ー 2ー | ー_〇 |



第3排も3回リピート。

霜の降りる寒い夜ふけ，一人寝のさみしさを女が歌う。

平板調

六尺。	上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。	仕四合。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。	四上上。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。	上。上上。上尺。上尺。上尺。上尺。	四上上。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。	合尺。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。	四合仕。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。	上。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。	合合合。上尺。上尺。上尺。上尺。上尺。
-----	--------------------	---------------------	---------------------	-------------------	---------------------	--------------------	---------------------	-------------------	---------------------

連山派では「寒松吟」「平板串」といったウラ曲と合奏される。溪派にも「平板串」はあるが、そのままとうまくアンサンブルにならない。長編の芝居歌でイントロ・アウトロとして使われることもあることから、いわゆる「出囃子」的な曲だったと考えられる。これからはじまるお芝居を期待させるように、時にゆったりと、時ににぎやかに弾きましょう。

平板調(ヘイバンチョウ)

2

5-5- | 5 6 i- | 5 6 i- | -O 2- | 合-合- | 合四仕- | 合四仕- | -O 尺- |
 5-3- | 3-2- | 3 5 2 3 | 1-6- | 六-工- | 工-尺- | 工六尺工 | 上-四- |
 -O i- | 6 5 i 6 | 5 3 2-1 | 6 i 5- | -O 仕- | 四合仕四 | 合工尺上 | 四仕合- |
 -O 2 3 | 2-2 3 | 5-6 i | 5 6 i- | -O 尺工 | 尺-尺工 | 合-四仕 | 合四仕- |
 -O 1- | 2-3- | 5-3 5 | 3 2 1- | -O 上- | 尺-工- | 六-工六 | 工尺上- |
 -O 1- | 1 6 5- | -O i- | 5 6 i- | -O 上- | 上四合- | -O 仕- | 合四仕- |
 -O 1 6 | 1-1- | 3 5 2- | 6 i 5- | -O 上四 | 上-上- | 工六尺- | 四仕合- |
 -O 6 i | 6 5 3- | 5-6 i | i 6 5- | -O 四仕 | 四合工- | 合-四仕 | 仕四合- |
 --3- | 1-2- | -O 2- | 3 5 6 1 | --工- | 上-尺- | -O 尺- | 工六四上 |
 1-3 5 | 2--O | 上-工六 | 尺--O |

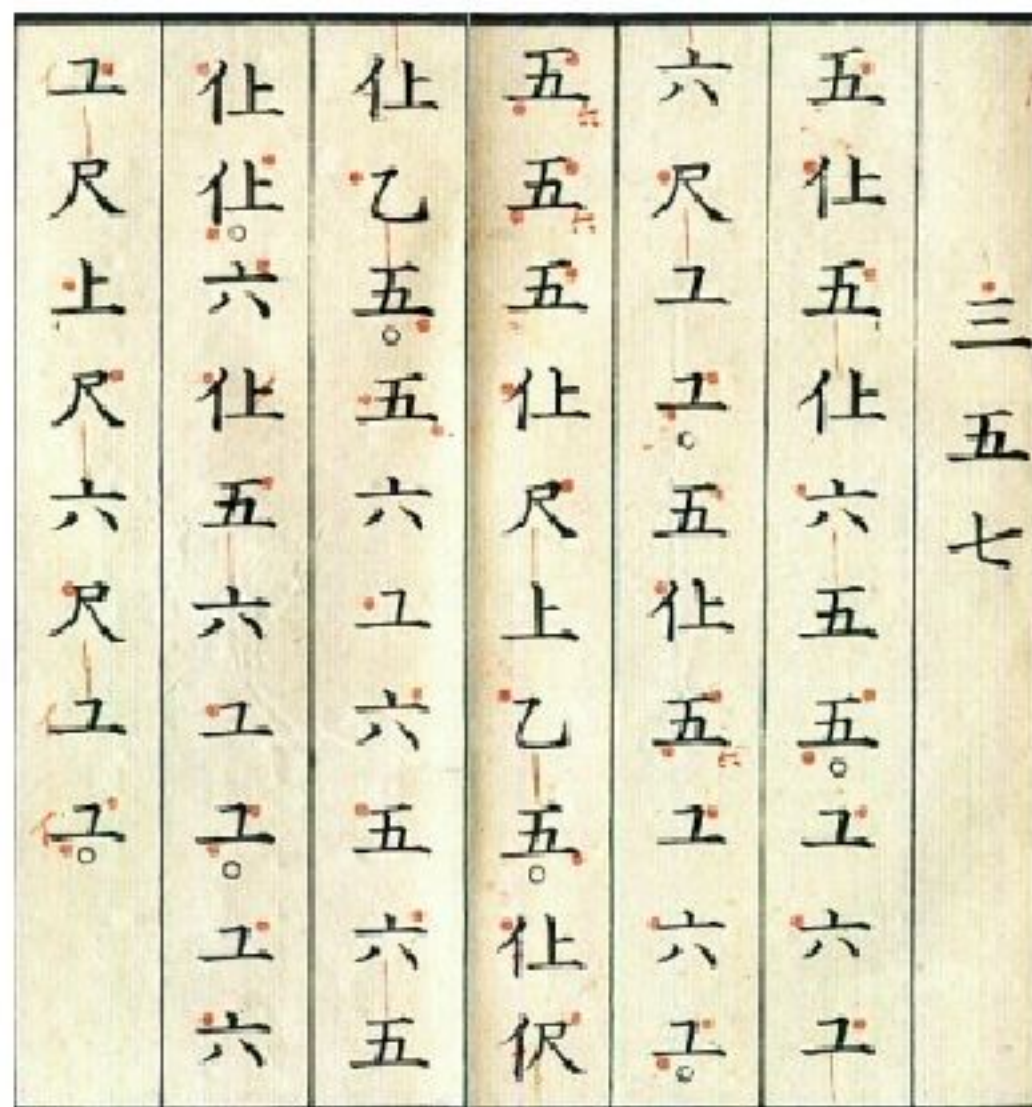
出だしのあたりは「〇〇流水」と名づく曲でよくあるフレーズ。テンポによって曲の印象ががらりと変わる。
 独奏の時は、下から2行目「工-上-尺- | -O (3- | 1-2- | -O)」のところでテンポを下げ、
 一拍置くと格好が良い。「仕」の長音のところで「上ノ仕」、曲尾で「尺ノ合」と合わせ弾きをするのも良い。
 あとは適当に開放弦をからめ、適度にアンコを。

三五七(サンゴシチ)

(第一排)

五ー仕ー | 五仕六五 | 五ーー〇 | 工ー六ー |
 工六尺工 | 工ーー〇 | 五ー仕ー | 五ーーー |
 工ー六ー | 工ーー〇 | 五ーーー | 五ーーー |
 五ー仕ー | 尺上乙五 | ー〇仕ー | 俣仕乙五 |
 ー〇五ー | ー六工ー | 六ー五ー | 六五仕ー |
 仕ーー〇 | 六ー仕ー | 五六工ー | 工ーー〇 |
 工ー六ー | 工尺上ー | 尺六尺工 | 工ーー〇 |

6-1- | 6 1 5 6 | 6- - 〇 | 3-5- |
 3 5 2 3 | 3- - 〇 | 6-1- | 6- - - |
 3-5- | 3- - 〇 | 6- - - | 6- - - |
 6-1- | 2 1 7 6 | - 〇 1- | 2 1 7 6 |
 - 〇 6- | - 5 3- | 5-6- | 5 6 1- |
 1- - 〇 | 5-1- | 6 5 3- | 3- - 〇 |
 3-5- | 3 2 1- | 2 5 2 3 | 3- - 〇 |



「尼姑思還(ニコシクワン)」とも。つぎの「將軍令」とともに、尼になった女が男を想い「還俗」を考えるという内容。歌詞に若干、倫理上の難点(w)はあったものの、曲調が日本人の好みだったと見え、器楽曲としてよく演奏された。

第1排は4回リピート。念仏唱えて数珠まさぐれど、夜ごと思いは悶々と——少しリズムをくずしながらもにや、っと弾きましょう。

三五七(サンゴシチ)

(第二排)

六五仕一 | 仕五六一 | 一〇五工 | 六一工五 |

六〇工尺 | 工六工尺上合四 | 上〇工尺 | 工六工尺上合四 |

上――〇 |

5 6 $\dot{1}$ - | $\dot{1}$ 6 5 - | - 〇 6 3 | 5 - 3 6 |

5 〇 3 2 | 3 5 3 2 1 5 6 | 1 〇 3 2 | 3 5 3 2 1 5 6 |

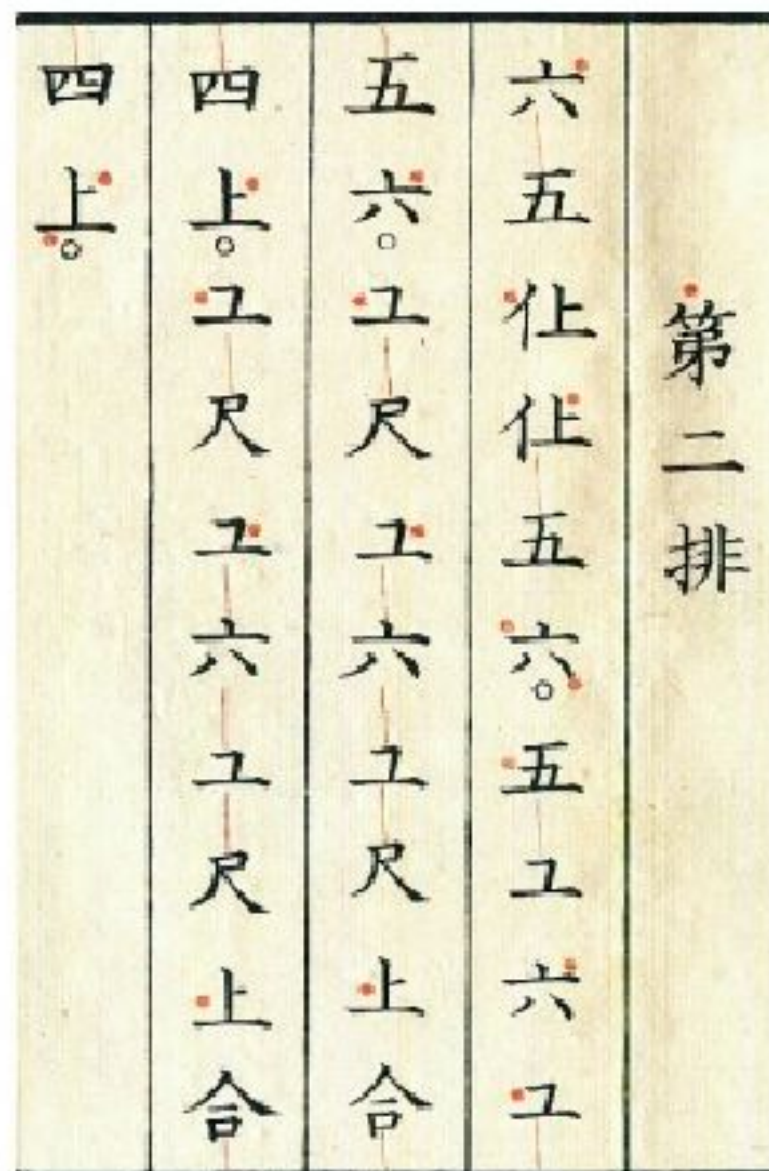
1――〇 |

第2排は2回リピート。

気晴らしにお寺の中を歩いても、羅漢さんが美少年に見える。

街へと托鉢参っても、出会いがないかと思うがばかり…

気持ちもそぞろ、あんよはウロウロという感じ、1排よりは心地早く、軽快に。



将軍令(ショウゲンレイ)

1



「将軍令」は曲牌（定型メロディ）としての名前で、別名「想郎経」。尼さんが男さんを想って唱えるお経の意味。本によってはこれを前の「三五七」の「第3排」としてひとつながりの曲とするが、類似の内容ではあるものの、本来は別個の曲と考えられる。

歌詞は3番まで。「お経のパロディ」といった感じで、真面目ぶって唱えるのも面白い。

将軍令(ショウゲンレイ)

2

2- <u>3</u> 1 3 2--○ 2- <u>3</u> 1 2 6--○	尺- <u>工</u> 上工 尺--○ 尺- <u>工</u> 上尺 四--○
6- <u>1</u> -- 2-2- 6 2 1 6 5○3 5	四-仕- 尺-尺- 四尺上四 合○工合
6 2 1 6 5-6- 5--○ 5-6-	五尺上五 六-五- 六--○ 六-五-
5-3 5 6-5 6 <u>1</u> -2 1 6--○	六-工六 五-六五 仕-尺上 四--○
6 <u>1</u> 6 5 4-3- 2-5- 2- <u>5</u> 3 2	四仕四合 凡-工- 尺-六- 尺- <u>六</u> 工尺
1-2 3 1--○ 1- <u>2</u> 3 5 2---	上-尺工 上--○ 上- <u>尺</u> 工六 尺---
2 3 1- 2--○ 3-5- 3-5-	尺工上- 尺--○ 工-六- 工-六-
2 3 1- 2--○ 2- <u>3</u> 1 2 5--○	尺工上- 尺--○ 尺- <u>工</u> 上尺 六--○
5-3 5 6--○ 6 2 1 6 5-3 5	六-工六 五--○ 五尺上五 六-工六
6 2 1 6 5-6- 5--○ 5--6	五尺上五 六-五- 六--○ 六--五
<u>1</u> - <u>1</u> -- 6 <u>1</u> -5 6○2 1 6-2 1	仕-仕- 五仕-六 五○尺上 四-尺上
2-3- 2--○	尺-工- 尺--○

流水調 (リュウスイチョウ)

2 2 3 5 | 6 - 5 0 | 4 - 3 - | 2 - 6 1 |
 2 - - 0 | 2 - 3 5 | 3 5 1 - | 3 - 2 1 |
 6 1 5 - | - 0 6 5 | 6 3 5 - | - 0 2 - |
 - 3 2 - | - 3 5 - | 5 - - 0 | 2 - 3 5 |
 3 5 1 - | 3 - 2 1 | 6 1 5 - | - - 6 5 |
 6 3 5 - | - 0 2 - | - 3 2 - | - 3 6 - |
 2 - 1 - | - 0 5 - | 7 - 6 7 | 6 5 6 7 |
 6 5 6 1 | - 6 1 - | 6 5 3 - | - 0 1 2 |
 3 - - - | 5 - 3 - | 5 - 2 - | 6 1 2 - |
 - 0 |

工 合 尺 四 上 尺。	仕 四 仕 四 合 工。 上 尺 工 合	乙 四 乙 四 合 四 乙 四 合 四	工 合。 尺 工 尺 工 四 尺 上。 合	上 工 尺 上 四 仕 合 四 合 四	工 尺 工 合 合。 尺 工 六 工 六	上 四 仕 合。 四 合 四 工 合。 尺	上 尺。 尺 工 六 工 六 上 工 尺	尺 尺 工 六 五。 六。 凡 工 尺 四	流水調
-----------------------------	---	--	--	--	---	--	---	--	-----

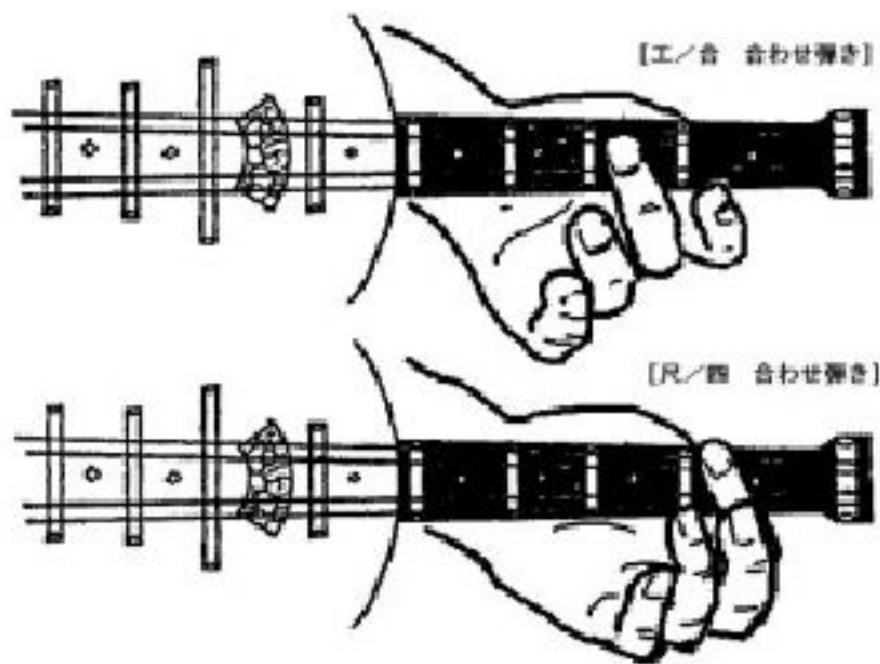
尺 尺 工 六 | 五 - 六 0 | 凡 - 工 - | 尺 - 四 上 |
 尺 - - 0 | 尺 - 工 六 | 工 六 上 - | 工 - 尺 上 |
 四 仕 合 - | - 0 四 合 | 四 工 合 - | - 0 尺 - |
 - 工 尺 - | - 工 合 - | 合 - - 0 | 尺 - 工 六 |
 工 六 上 - | 工 - 尺 上 | 四 仕 合 - | - - 四 合 |

四 工 合 - | - 0 尺 - | - 工 尺 - | - 工 四 - |
 尺 - 上 - | - 0 合 - | 乙 - 四 乙 | 四 合 四 乙 |
 四 合 四 仕 | - 四 仕 - | 四 合 工 - | - 0 上 尺 |
 工 - - - | 合 - 工 - | 合 - 尺 - | 四 上 尺 - |
 - 0 |

連山源では「新流水」と題される。メロディーの主要部に凡乙の符のあることから、7音階の北方系の曲ではないかと考えられる。

西皮調

六六尺上六仕六仕五六
 工尺上六五六尺上六五
 六上尺上尺上五上六上
 六上尺上上六上上六上
 六上尺上上四上上六上
 四合合上四上尺上尺上四
 上尺上尺上尺上四上尺
 上四仕合五六上六尺上六
 上六尺上六五六上尺上
 尺上上五六上六上尺上
 上六上尺上六上上六上
 上四上上六上六上尺上
 尺上上合四合四合上合
 四四乙乙五五六六六五
 六上五六五六上五六上
 六上尺上上六上上六上
 六上六上上四上上六上
 六上尺上上尺上四合四合



四合上上上上六尺上六
 上尺上五六上五六上六
 上尺上上六上上六上六
 上六上上四上上六上六
 上尺上上四合四合四
 合合四乙乙五五五上六
 五

西皮調(スイピチャウ) 2

六ー六ー 尺工六ー ー〇[仕ー 六仕五六	ー〇六ー 六ー五ー ー六工ー 五ー六ー
工ー尺工 六五六〇 尺工六ー 五六工尺	ー〇五六 工五六ー ー〇工六 工尺上ー
上ーー〇 尺尺工五 六ーー〇 工六工尺	ー〇工六 工尺上〇 六六工六 上ーー〇
上ーー〇 工六工尺 上〇六六 工六上ー	上四上ー 上ー六ー 工六工尺 上ー尺ー
ー〇上四 上ー上ー 六ー工六 工尺上ー	上ー四ー 合ーー四 <u>工尺</u> 合ー ー〇上ー
尺ー上ー 四ー合ー ー四 <u>工尺</u> 合ーー〇	上ー工ー 工六尺ー ー〇工六 工尺上ー
合ー工ー 四上尺ー ー〇尺ー ーー尺ー	ー〇五六 工五六ー ー〇工六 工尺上ー
ーー四上 尺ーー〇 工ー尺工 尺上四ー	ー〇工六 工尺上〇 六六工六 上ーー〇
工ー尺上 四仕合ー ー〇五六 工六尺ー	上四上ー 上ー六ー 工六工尺 上ー尺ー
ー〇六工 六ー尺工 六ー五六 工尺上ー	上ー四ー 合ーー四 <u>工尺</u> 合ー ー〇合ー
ー〇尺尺 工五六ー ー〇工六 工尺上ー	四ー乙ー 乙ー五ー ー〇五ー ーー五ー
ー〇工六 工尺上〇 六六工六 上ーー〇	ーー工六 五ーー〇]
上四上ー 上ー六ー 工六工尺 上ー尺ー	
上ー四ー 合ーー四 <u>工尺</u> 合ー ー〇工ー	
合ー四ー 四ー乙ー 乙ー五ー 五ー六ー	

オリジナルでは四角内で囲んだ部分が「合四」となっているが、ほとんどの朱入り譜はここを「工尺」と訂正している。もともとは「合わせ弾き」による同時発音の指示だったものが、古典的な月琴の奏法では、低音弦の「工尺」のほうが先に発音されるため、旧譜の錯誤と見る向きが増えたためであろう。

複数の月琴による合奏の際には、各人が合わせ弾きをせずとも、「工尺」と弾くものと「合四」と弾くものが出てよい。また明笛は「工尺」より「合四」のほうが楽器に合っている。

西皮調(スイピチャウ) 3

5-5- | 2 3 5- | -O[1̇- | 5 1̇ 6 5 | -O 5- | 5-6- | -5 3- | 6-5- |
 3-2 3 | 5 6 5 O | 2 3 5- | 6 5 3 2 | -O 6 5 | 3 6 5- | -O 3 5 | 3 2 1- |
 1--O | 2 2 3 6 | 5--O | 3 5 3 2 | -O 3 5 | 3 2 1 O | 5 5 3 5 | 1--O |
 1--O | 3 5 3 2 | 1 O 5 5 | 3 5 1- | 1 6̇ 1- | 1-5- | 3 5 3 2 | 1-2- |
 -O 1 6̇ | 1-1- | 5-3 5 | 3 2 1- | 1-6̇- | 5̇--6̇ | 3 2 5̇- | -O 1- |
 2-1- | 6̇-5̇- | -6̇ 3 2 | 5̇--O | 1-3- | 3 5 2- | -O 3 5 | 3 2 1- |
5̇-3- | 6̇ 1 2- | -O 2- | --2- | -O 6 5 | 3 6 5- | -O 3 5 | 3 2 1- |
 --6̇ 1 | 2--O | 3-2 3 | 2 1 6̇- | -O 3 5 | 3 2 1 O | 5 5 3 5 | 1--O |
 3-2 1 | 6̇ 1̇ 5̇- | -O 6 5 | 3 5 2- | 1 6̇ 1- | 1-5- | 3 5 3 2 | 1-2- |
 -O 5 3 | 5-2 3 | 5-6 5 | 3 2 1- | 1-6̇- | 5̇--6̇ | 3 2 5̇- | -O 5̇- |
 -O 2 2 | 3 6 5- | -O 3 5 | 3 2 1- | 6̇-7̇- | 7̇-6- | -O 6- | --6- |
 -O 3 5 | 3 2 1 O | 5 5 3 5 | 1--O | --3 5 | 6--O |]
 1 6̇ 1- | 1-5- | 3 5 3 2 | 1-2- |
 1-6̇- | 5̇--6̇ | 3 2 5̇- | -O 3- |
5̇-6̇- | 6̇-7̇- | 7̇-6- | 6-5- |

「3 2」のところは「3」と「5」／「2」と「6」を同時に発音する。低音第2フレットを押さえ、高音開放と合わせ弾き、第1フレットのところで人差し指でパー、低音弦と高音弦を合わせ弾く。

二凡調(ニハンチャウ) 1

工六工尺 | 上〇^工尺^上 | 尺^上四尺 | 合——〇 |
 工合工上 | 尺〇四上 | 尺—合〇 | 尺^上六^上工^上六^上 |
 工尺上〇 | 尺^上六^上尺^上 | 四合^上仕〇 | 工六尺^上 |
 四尺合— | —〇[尺— | 尺—尺工 | 尺——上 |
 四——〇 | 尺—六— | 工—工— | 工—工^上尺 |
 上工尺四 | 上——〇 | 合—四— | 仕—合工 |
 尺^上四合^上 | 仕〇工六 | 尺^上四尺 | 合——— | 難所 1
 —工—六 | 尺上四— | —〇六— | 工—六— |
 五——— | ——〇 | 尺上尺— | 上尺上— |
 乙—合乙 | 四——〇 | 乙—四— | 合—四— |
 乙尺四— | 合—四〇 | 合四仕— | 合工尺^上 |
 四合^上仕〇 | 工六尺^上 | 四尺合— | —〇上— |
 尺—工— | 六——五 | —六工— | 尺——〇 |
 尺—尺— | 乙—四— | 合四仕— | —〇仕尺 |
 上四合— | —〇合^上 | 仕尺合— | —〇仕四 |
 仕〇尺上 | 尺六工尺 | 四合^上仕〇 | 尺^上六^上尺^上 |
 四合^上上〇 | 工六尺^上 | 四尺合— | —〇]

難所 2

二凡調

工六^上工^上尺^上 | 上〇^工尺^上 | 尺^上四尺 | 合——〇 |
 工合工上 | 尺〇四上 | 尺—合〇 | 尺^上六^上工^上六^上 |
 工尺上〇 | 尺^上六^上尺^上 | 四合^上仕〇 | 工六尺^上 |
 四尺合— | —〇[尺— | 尺—尺工 | 尺——上 |
 四——〇 | 尺—六— | 工—工— | 工—工^上尺 |
 上工尺四 | 上——〇 | 合—四— | 仕—合工 |
 尺^上四合^上 | 仕〇工六 | 尺^上四尺 | 合——— | 難所 1
 —工—六 | 尺上四— | —〇六— | 工—六— |
 五——— | ——〇 | 尺上尺— | 上尺上— |
 乙—合乙 | 四——〇 | 乙—四— | 合—四— |
 乙尺四— | 合—四〇 | 合四仕— | 合工尺^上 |
 四合^上仕〇 | 工六尺^上 | 四尺合— | —〇上— |
 尺—工— | 六——五 | —六工— | 尺——〇 |
 尺—尺— | 乙—四— | 合四仕— | —〇仕尺 |
 上四合— | —〇合^上 | 仕尺合— | —〇仕四 |
 仕〇尺上 | 尺六工尺 | 四合^上仕〇 | 尺^上六^上尺^上 |
 四合^上上〇 | 工六尺^上 | 四尺合— | —〇]

上四六^上工^上六^上五^上尺^上上^上尺^上上^上 |
 尺上乙合乙四乙四合四 |
 乙尺四合四合四仕合工 |
 尺上四合四仕工六尺上 |
 四尺合上尺工六五六工 |
 尺尺乙四合四仕尺 |
 上四合合四仕尺合仕四 |
 仕尺上尺六工尺四合四 |
 仕工尺工六尺上四合四 |
 上工六尺上四尺合

3 5 3 2 1 O <u>3 2 3 5</u> 2 <u>1</u> 6 2 5 — — O	7 — 5 7 6 — — O 7 — 6 — 5 — 6 —
3 5 3 1 2 O 6 1 2 — 5 O 2 <u>5</u> 3 5	7 2 6 — 5 — 6 O 5 6 1 — 5 3 2 <u>1</u>
3 2 1 O <u>3 2 3 5</u> 2 <u>1</u> 6 <u>5 6</u> 1 O 3 5 2 <u>1</u>	6 <u>5 6</u> 1 O 3 5 2 <u>1</u> 6 2 5 — — O 1 —
6 2 5 — — O [2 — 2 — 2 3 2 — — 1	2 — 3 — <u>5 — — 6 — 5</u> 3 — 2 — — O
6 — — O 2 — 5 — 3 — 3 — 3 — 3 <u>2</u>	2 — 2 — 7 — 6 — 5 6 1 — — O 1 2
1 3 2 6 1 — — O 5 — 6 — 1 — 5 3	1 6 5 — — O <u>5 6</u> 1 2 5 — — O 1 6
<u>2 <u>1</u> 6 <u>5 6</u> 1 O 3 5 2 <u>1</u> 6 2 5 — — — </u>	1 O 2 1 2 5 3 2 6 <u>5 6</u> 1 O <u>3 2 3 5</u> 2 <u>1</u>
<u>— 3 — 5 2 1 6 — — O 5 — 3 — 5 — </u>	6 <u>5 6</u> 1 O 3 5 2 <u>1</u> 6 2 5 — — O]
6 — — — — — — O 2 1 2 — 1 2 1 —	

出だしから3行1小節めまでは「緩（ゆっくり）」。

3行2小節めから「中早（やや早く）」。

3行4小節め「尺（2）」のところから「ス早（もう少し早く）」で5行目最後まで。

6行1小節「尺（2）」から「早（早く）」で15行2小節めまで。

15行3小節めで少しテンポを下げて「中早（やや早く）」。

15行4小節めから最後まで「早」で通して終わり。

再現曲では「緩」を Tempo=60, 「中早」を Tempo=80, 「ス早」を Tempo=86, 「早」を Tempo=90~120 とした。
このテンポの上げ下げと、音符の長短の差がけっこうあるので、全体のリズムに注意すること。

溪菴流水

上四尺上尺上六尺	二尺上六五仕上尺五。尺	六五。五尺乙上五五仕	二五仕六六五仕尺仕五	二六五五。凡上尺上尺	二尺五仕六。上五六	六五仕六乙五。五仕五六	二上尺上五六。上五	二六五尺上四。上尺上尺	四合四合四仕尺上五六	四仕四伏四四仕伏伏	仕上六尺上四合四仕尺	尺尺合合四仕六仕五。五
----------	-------------	------------	------------	------------	-----------	-------------	-----------	-------------	------------	-----------	------------	-------------

曲調より運指の難しさや発音のタイミングのとりにくさといった、技巧上の難点を主眼としたかのような難曲。また連山派の譜との比較から、フレーズ間にはかなりの緩急差をつけて演奏されていたらしいことも分かっている。

溪菴流水(ケイアンリュウスイ)

2

2-2- | 5-5 6 | 1̇-5 1̇ | 6--0 |
 6-1̇- | 3 5 2-1 | 6̇5̇6̇ 1̇ 2 | 6-0 1̇ |
 6--2̇ | 6-6 1̇ | 2̇-2̇ 2̇ | 6̇ 5̇ 6̇5̇6̇ |
 1̇ 2̇1̇ 6- | 5-3 5 | 6-2 1 | 6--0 |
 1--2 | 1-2 3 0 | 1 2 1 6 | 5-6- |
 5-3 6 | 5-6 1̇ | 5-7- | 6--0 |
 6-1̇- | 6--5 | 3 2 6 1̇ | 5--0 |
 3 6 5-6 | 5-3 5 | 6-6- | 5--0 |
 4 3-2 | 1 2 3- | 6--1̇ | 5-5 6 |
 1̇ 2̇ 1̇ 6 | 5-6- | 5--0 | 6 2 7 3 |
 6-6 1̇ | 3̇2̇3̇5̇ 6̇1̇3̇2̇ | 6 0 2 1 | 6-2 1 |
 2-3 5 | 2--0 |

尺一尺一 | 合一合四 | 仕一六仕 | 五--0 |
 五一仕一 | 工六尺上 | 四合四仕尺 | 四一0仕 |
 四--促 | 四一四仕 | 促一促促 | 四合四合 |
 仕尺上五 | 六一工六 | 五一尺上 | 四--0 |
 上--尺 | 上尺工0 | 上尺上五 | 六一五一 |
 六一工五 | 六一五仕 | 六一乙一 | 五--0 |
 五一仕一 | 五--六 | 工尺五仕 | 六一一0 |
 工五六五 | 六一工六 | 五--五一 | 六一一0 |
 凡工一尺 | 上尺工一 | 五--仕 | 六一六五 |
 仕尺仕五 | 六一五一 | 六一一0 | 五尺乙工 |
 五一五仕 | 工工六五仕工尺 | 五0尺上 | 四一尺上 |
 尺一工六 | 尺--0 |

最初の2小節と最後の7小節で、テンポを下げたゆったり弾き、
 中間は中速で弾くと比較的それらしく聞ける。

五六 上尺 上尺 六 上 上 上
 六 尺 上 六 尺 上 上 四 五 六
 上 尺 六 上 六 上 六 五 上 五
 六 上 六 上 上 尺 上 尺 五 五
 六 五 六 上 尺 上 六 尺 上 上
 四 上 上 尺 上 上 四 六 五 上
 五 六 上 尺 六 上 六 上 五 六
 上 上 尺 上 尺 六 上 上 上 六
 尺 上 六 尺 上 上 四 六 五 上

五六 上 尺 六 上 上 六 上 六 五
 五 六 五 上 上 尺 上 上 五 五
 六 五 六 五 上 上 六 上 尺 六
 上 六 上 六 五 上 六 上 上 尺 上
 尺 六 上 上 六 上 上 尺 上 六 尺
 上 上 四 五 六 上 尺 六 上 六
 上 六 五 上 五 六 上 六 上 上
 尺 上 尺 五 五 六 五 六 上 尺
 上 六 尺 上 上 四 上 上 尺 上
 上 四 六 五 上 五 六 上 上 尺 六

碧破玉(ヘキハギョク)

曲題「碧破玉」は曲牌名。いろいろな歌詞をつけて唱えられる汎用的メロディの形式名。本書の譜は三国志「送二娘」（「送二嫂」とも）に使われたもの。徐州で敗れ散り散りとなった劉・関・張の義兄弟。劉備の妻子を護る関羽のもとへ、曹操のもとより猛将・張遼が、降伏の使者として説得に来る。降って義兄の家族の命を守るか、一戦してもろともに死を選ぶか、悩む関羽。

溪派ではそのほか、長曲「翠賽英」の第一排としても使われている。ただしフレーズは一部異なる。また本曲の前弾（序曲）として「韻頭環」が演奏されることが多かったようだ。

1 五六工尺 | 上一尺六 | 工一一〇 | 工一工六 |
 尺一工六 | 尺工上一 | 四一一〇 | 五六工尺 |
 六一一一 | 工一六〇 | 工一一一 | 六一一一 |
 五一仕一 | 五一六一 | 工一一六 | 工一上一 |
 尺一一一 | 上一尺〇 | 五一五一 | 六五六工 |
 尺一工六 | 尺工上一 | 四一一〇 | 上一工一 |
 尺工上一 | 四一一〇 | 六五仕一 | 五六工尺 |
 六一一一 | 工一六〇 | 工一五一 | 一六工一 |
 工尺上一 | 尺六工一 | 一〇工一 | 工六尺一 |
 工六尺工 | 上一四一 | 一〇六五 | 仕一五六 |
 工尺六一 | 一一工一 | 六〇工一 | 一一六一 |
 一一五一 | 五一一一 | 一一六一 | 一五仕一 |
 仕一一一 | 俣一仕一 | 乙一五一 | 一〇五六 |
 五一六五 | 仕一五六 | 工尺六一 | 一一工一 |
 六〇工六 | 五一六一 | 工一工尺 | 上一尺六 |
 工一一〇 | 工一工六 | 尺一工六 | 尺工上一 |
 四一一〇 | 五六工尺 | 六一一一 | 工一六〇 |
 工一一一 | 六一一一 | 五一仕一 | 五一六一 |
 工一一六 | 工一上一 | 尺一一一 | 上一尺〇 |

2 五一五一 | 六五六工 | 尺一工六 | 尺工上一 |
 四一一〇 | 上一工一 | 尺工上一 | 四一一〇 |
 六五仕一 | 五六工尺 | 六一一一 | 工一六〇 |
 工一一一 | 六一一一 | 五一五一 | 一一尺一 |
 一一工一 | 一一尺一 | 上一四一 | 一一六一 |
 一一上一 | 工一尺工 | 上一四一 | 一〇六五 |
 仕一五六 | 工尺六一 | 一一工一 | 六〇工一 |
 一一六一 | 一一五一 | 五一一一 | 六一一五 |
 仕一仕一 | 一一尺一 | 上一乙一 | 五一一〇 |
 五六五一 | 六五仕一 | 五六工尺 | 六一一一 |
 工一六〇 | 工一一一 | 六一一一 | 五一五一 |
 一一六一 | 一五六一 | 六一一一 | 五一工一 |
 六一五一 | 一一六一 | 六一工一 | 一一尺一 |
 上一一一 | 工一一六 | 尺一一一 | 一一一〇 |
 工一一一 | 六一一一 | 五一仕一 | 五一六一 |
 尺一一一 | 工一一六 | 尺一上一 | 四一一一 |
 六一一一 | 上一工一 | 尺工上一 | 四一一〇 |
 六五仕一 | 五六工尺 | 六一一一 | 工一六一 |
 工一六〇 ||

碧破玉(ヘキハギョク)

3

A	6 5 3 2 1 - 2 5 3 - - ○ 3 - 3 5	B	6 - 6 - 5 6 5 3 2 - 3 5 2 3 1 -
2 - 3 5 2 3 1 - 6̣ - - ○ 6 5 3 2	6̣ - - ○ 1 - 3 - 2 3 1 - 6̣ - - ○		
5 - - - 3 - 5 ○ 3 - - - 5 - - -	5 6 [̣] 1 - 6 5 3 2 5 - - - 3 - 5 ○		
6 - [̣] 1 - 6 - 5 - 3 - - 5 3 - 1 -	3 - - - 5 - - - 6 - 6 - - - 2 -		
2 - - - 1 - 2 ○ 6 - 6 - 5 6 5 3	- - 3 - - - 2 - 1 - 6̣ - - - 5 -		
2 - 3 5 2 3 1 - 6̣ - - ○ 1 - 3 -	- - 1 - 3 - 2 3 1 - 6̣ - - ○ 5 6		
2 3 1 - 6̣ - - ○ 5 6 [̣] 1 - 6 5 3 2	[̣] 1 - 6 5 3 2 5 - - - 3 - 5 ○ 3 -		
5 - - - 3 - 5 ○ 3 - 6 - - 5 3 -	- - 5 - - - 6 - 6 - - - 5 - - 6		
3 2 1 - 2 5 3 - - ○ 3 - 3 5 2 -	[̣] 1 - [̣] 1 - - - 2 - 1 - 7 - 6 - - ○		
3 5 2 3 1 - 6̣ - - ○ 5 6 [̣] 1 - 6 5	6 5 6 - 5 6 [̣] 1 - 6 5 3 2 5 - - -		
3 2 5 - - - 3 - 5 ○ 3 - - - 5 -	3 - 5 ○ 3 - - - 5 - - - 6 - 6 -		
- - 6 - 6 - - - - - 5 - - 6 [̣] 1 -	- - 5 - - 6 5 - 5 - - - 6 - 3 -		
[̣] 1 - - - [̣] 2 - [̣] 1 - 7 - 6 - - ○ 6 5	5 - 6 - - - 5 - 5 - 3 - - - 2 -		
6 - 5 6 [̣] 1 - 6 5 3 2 5 - - - 3 -	1 - - - 3 - - 5 2 - - - - - - ○		
5 ○ 3 5 6 - - 5 3 - 3 2 1 - 2 5	3 - - - 5 - - - 6 - [̣] 1 - 6 - 5 -		
3 - - ○ 3 - 3 5 2 - 3 5 2 3 1 -	2 - - - 3 - - 5 2 - 1 - 6̣ - - -		
6̣ - - ○ 6 5 3 2 5 - - - 3 - 5 ○	5 - - - 1 - 3 - 2 3 1 - 6̣ - - ○		
3 - - - 5 - - - 6̣ - 1 - 6 - 5 -	5 6 [̣] 1 - 6 5 3 2 5 - - - 3 - 5 -		
3 - - 5 3 - 1 - 2 - - - 1 - 2 ○	3 - 5 ○		

桐城歌

仕	仕	五	六	工	五	五	六	五	六
工	尺	工	尺	上	四	合	四	尺	工
六	工	尺	工	工	尺	上	四	上	工
尺	工	尺	上	四	四	仕	六	五	六
仕	五	六	五	仕	五	六	工	六	工
六	五	仕	仕	五	六	工	五	六	
工	五	六	工	六	工	五	五	六	五
六	工	尺	工	尺	上	四	合	四	上
四	上	上	五	五	六	五	六	工	尺

上	五	五	六	五	六	工	尺	工	尺
上	四	合	四	尺	工	六	工	尺	工
工	尺	上	四	上	工	尺	工	尺	上
四	四	仕	六	五	六				

桐城歌(トウジャウカ)

曲題「桐城歌」は曲牌名、安徽省の桐城を中心として流行したメロディの形式。いろいろな歌詞が乗せられるが、本書の譜はおもに三国志「探子報」の曲として使用されたもの。敗れて散り散りとなった劉備一行、関羽は劉備の妻子を護って曹操に降る。劉備は関羽を救おうと袁紹から借りた軍兵を率いて追ってくる。

工	尺	上	四	合	四	尺	工	六	工
尺	工	工	尺	上	四	上	工	尺	工
尺	上	四	四	仕	六	五	六	仕	五
六	五	仕	五	六	工	六	工	上	尺
工	尺	工	尺	上	四	合	四	工	尺
工	尺	上	四	四	仕	六	五	六	仕
五	六	五	仕	五	六	工	六	工	六
五	仕	仕	五	六	工	五	六	工	五
六	工	六	工	五	五	六	五	六	工
尺	工	尺	上	四	合	四	上	四	上

桐城歌(トウジャウカ)

2

仕一仕一 | 五一六一 | 工一一一 | 一一一〇 |
 五一五一 | 六五六工 | 尺工尺上 | 四合四一 |
 一〇尺一 | 工六工尺 | 工一工尺 | 上四上〇 |
 工一尺工 | 尺上四一 | 四仕六五 | 六一一〇 |
 仕一五一 | 六一五一 | 仕一五六 | 工一一〇 |
 六一工一 | 六一五一 | 仕仕一〇 | 五一一六 |
 工一五六 | 工一五六 | 工六工一 | 一〇五一 |
 五一六五 | 六工尺工 | 尺上四合 | 四一一〇 |
 上四上一 | 上〇五一 | 五一六五 | 六工尺工 |
 尺上四合 | 四一一〇 | 尺一工六 | 工尺工一 |
 工尺上四 | 上〇工一 | 尺工尺上 | 四一四仕 |
 六五六一 | 一〇仕一 | 五一六一 | 五一仕一 |
 五六工一 | 一〇六一 | 工一上一 | 尺一工一 |
 尺工尺上 | 四合四一 | 一〇工一 | 尺工尺上 |
 四一四仕 | 六五六一 | 一〇仕一 | 五一六一 |
 五一仕一 | 五六工一 | 一〇六一 | 工一六一 |
 五一仕仕 | 一〇五一 | 一六工〇 | 五六工一 |

五六工六 | 工一一〇 | 五一五一 | 六五六工 |
 尺工尺上 | 四合四一 | 一〇上四 | 上一上〇 |
 五一五一 | 六五六工 | 尺工尺上 | 四合四一 |
 一〇尺一 | 工六工尺 | 工一工尺 | 上四上〇 |
 工一尺工 | 尺上四一 | 四仕六五 | 六一一〇 ||

1行3・4小節の「工。」は3拍点(1小節半の長さ)とするものと4拍点(2小節ぶん)とする例がある。3拍点とした場合は、以降拍子のオモテウラが本例と逆転する。

桐城歌(トウジャウカ)

$\dot{1} - \dot{1} - | 6 - 5 - | 3 - - - | - - - \bigcirc |$ $6\ 5\ 3\ 5 | 3 - - \bigcirc | 6 - 6 - | 5\ 6\ 5\ 3 |$
 $6 - 6 - | 5\ 6\ 5\ 3 | 2\ 3\ 2\ 1 | \underset{\cdot}{6}\ \underset{\cdot}{5}\ \underset{\cdot}{6} - |$ $2\ 3\ 2\ 1 | \underset{\cdot}{6}\ \underset{\cdot}{5}\ \underset{\cdot}{6} - | - \bigcirc 1\ \underset{\cdot}{6} | 1 - 1 \bigcirc |$
 $- \bigcirc 2 - | 3\ 5\ 3\ 2 | 3 - 3\ 2 | 1\ \underset{\cdot}{6}\ 1 \bigcirc |$ $6 - 6 - | 5\ 6\ 5\ 3 | 2\ 3\ 2\ 1 | \underset{\cdot}{6}\ \underset{\cdot}{5}\ \underset{\cdot}{6} - |$
 $3 - 2\ 3 | 2\ 1\ \underset{\cdot}{6} - | \underset{\cdot}{6}\ \dot{1}\ 5\ 6 | 5 - - \bigcirc |$ $- \bigcirc 2 - | 3\ 5\ 3\ 2 | 3 - 3\ 2 | 1\ \underset{\cdot}{6}\ 1 \bigcirc |$
 $\dot{1} - 6 - | 5 - 6 - | \dot{1} - 6\ 5 | 3 - - \bigcirc |$ $3 - 2\ 3 | 2\ 1\ \underset{\cdot}{6} - | \underset{\cdot}{6}\ \dot{1}\ 5\ 6 | 5 - - \bigcirc ||$
 $5 - 3 - | 5 - 6 - | \dot{1}\ \dot{1} - \bigcirc | 6 - - 5 |$
 $3 - 6\ 5 | 3 - 6\ 5 | 3\ 5\ 3 - | - \bigcirc 6 - |$
 $6 - 5\ 6 | 5\ 3\ 2\ 3 | 2\ 1\ \underset{\cdot}{6}\ \underset{\cdot}{5} | \underset{\cdot}{6} - - \bigcirc |$
 $1\ \underset{\cdot}{6}\ 1 - | 1 \bigcirc 6 - | 6 - 5\ 6 | 5\ 3\ 2\ 3 |$
 $2\ 1\ \underset{\cdot}{6}\ \underset{\cdot}{5} | \underset{\cdot}{6} - - \bigcirc | 2 - 3\ 5 | 3\ 2\ 3 - |$
 $3\ 2\ 1\ \underset{\cdot}{6} | 1 \bigcirc 3 - | 2\ 3\ 2\ 1 | \underset{\cdot}{6} - \underset{\cdot}{6}\ \dot{1} |$
 $5\ 6\ 5 - | - \bigcirc \dot{1} - | 6 - 5 - | 6 - \dot{1} - |$
 $6\ 5\ 3 - | - \bigcirc 5 - | 3 - 1 - | 2 - 3 - |$
 $2\ 3\ 2\ 1 | \underset{\cdot}{6}\ \underset{\cdot}{5}\ \underset{\cdot}{6} - | - \bigcirc 3 - | 2\ 3\ 2\ 1 |$
 $\underset{\cdot}{6} - \underset{\cdot}{6}\ \dot{1} | 5\ 6\ 5 - | - \bigcirc \dot{1} - | 6 - 5 - |$
 $6 - \dot{1} - | 6\ 5\ 3 - | - \bigcirc 5 - | 3 - 5 - |$
 $6 - \dot{1}\ \dot{1} | - \bigcirc 6 - | - 5\ 3 \bigcirc | 6\ 5\ 3 - |$

双碟翠

仕	仕	五	仕	六	五	仕	仕	五	仕
六	五	六	五	五	五	五	六	五	仕
六	工	六	尺	尺	工	六	六	六	六
五	六	工	六	工	尺	工	六	工	尺
上	四	上	上	上	尺	工	六	工	尺
上	四	上	上	五	五	六	五	五	仕
六	工	六	工	六	上	尺	工	尺	工
工	六	尺	工	尺	工	尺	工	工	五
六	五	仕	六	工	六	工	六	上	四

工	尺	工	六	工	尺	工	四	上	工
六	五	六	工	尺	上	尺	工	尺	工
六	五	六	工	工	六	尺	工	六	上
尺	上	尺	工	尺	四	仕	四	合	上
尺	工	尺	四	仕	四	合			

3

双碟翠(サウチャウスイ)

「双蝶翠」と書かれることもある。おそらく台湾北管などにある「双疊磬」などと同系の曲牌であろう。

原譜20行目行頭に「五六六。」と3符1句点の入っている版もあり、そちらが旧譜と思われるが、ここでは漢派において標準的であったと思われる修正譜の版を紹介する。

本書の例は三国志「曹府宴」の曲として用いられている版に近い。徐州の戦いのあと条件付きで曹軍に降った関羽は、曹操の客将として袁紹配下の文醜・顔良の二將軍を斬り手柄をあげた。その功績を賞するため曹操は関羽のために酒宴をはる。

上	五	六	工	六	尺	工	尺	上	工
尺	五	工	六	工	五	六	工	六	尺
上	乙	五	五	工	六	五	六	工	六
尺	工	六	工	六	尺	上	乙	五	五
工	六	五	仕	尺	工	尺	上	四	上
四	上	四	上	仕	五	六	工	尺	工
仕	五	六	仕	五	六	五	六	五	六
上	尺	上	六	五	六	工	六	尺	上
乙	五	上	四	上	上	乙	四	合	工
六	五	五	仕	六	六	五	六	五	六

1

2

仕一仕一 五仕六五 仕一仕一 五仕六五	上〇六五 六〇工六 一一尺上 一乙五一
一六五一 五一一〇 五一一〇 六一五一	一〇上四 上上一〇 乙一一四 合一一〇
一仕六一 工一一〇 六一尺一 尺工六一	工一六一 五一一仕 六一一〇 六五六五
一一六一 六一六〇 五六工六 工一一〇	六〇工一 一一尺工 六一工尺 工四上一
尺一工六 工尺上一 一四上一 上一一〇	一〇工一 六一五一 一一六一 一〇工尺
上一一一 尺一工六 工尺上一 一四上一	上尺工〇 尺工六一 五一一一 六一一〇
上一一〇 五一一〇 六一五一 五仕六一	工工一六 尺一一〇 工六一上 尺一一〇
工一一〇 六一工一 六一上一 一尺工一	上尺工一 尺一一〇 四仕一四 合一一〇
一尺工一 工一一〇 六一尺一 工一一尺	上尺工一 尺一一〇 四仕一四 合一一〇
工一一尺 工一工一 一〇五一 一一六一	
五一一仕 六一工一 一〇六一 工一六一	
上一四一 上一一一 一一一〇 五六工六	
尺一一〇 工 _上 上工 尺一一〇 五工六〇	
工五六〇 工六一一 尺上一乙 五一一〇	
五工六一 一〇五 _六 工六尺一 一〇工六	
工六一一 尺上一乙 五一一〇 五工六〇	
五仕一一 尺工尺上 四一一〇 上四上一	
一四上〇 仕一五六 工一一尺 工一一一	
仕 _五 六仕 五一一〇 六五六五 六〇上尺	

双碟翠(サウチャウスイ)

3

1̣-1̣- 6 1̣ 5 6 1̣-1̣- 6 1̣ 5 6	1 〇 5 6 5 〇 3 5 -- 2 1 - 7 6 -
- 5 6 - 6 -- 〇 6 - 6 - 5 - 6 -	- 〇 1 6̣ 1 1 - 〇 7̣ -- 6̣ 5̣ -- 〇
- 1̣ 5 - 3 -- 〇 5 - 2 - 2 3 5 -	3 - 5 - 6 - 6 1̣ 5 -- 〇 5 6 5 6
-- 5 - 5 - 5 〇 6 5 3 5 3 -- 〇	5 〇 3 - -- 2 3 5 - 3 2 3 6̣ 1 -
2 - 3 5 3 2 1 - - 6̣ 1 - 1 -- 〇	- 〇 3 - 5 - 6 - -- 5 - - 〇 3 2
1 -- - 2 - 3 5 3 2 1 - - 6̣ 1 -	1 2 3 〇 2 3 5 - 6 -- - 5 -- 〇
1 -- 〇 6 - 6 - 5 - 6 - 6 1̣ 5 -	3 3 - 5 2 -- 〇 3 5 - 1 2 -- 〇
3 -- 〇 5 - 3 - 5 - 1 - - 2 3 -	1 2 3 - 2 -- 〇 6̣ 1̣ - 6̣ 5̣ -- 〇
- 2 3 - 3 -- 〇 5 - 2 - 3 -- 2	1 2 3 - 2 -- 〇 6̣ 1̣ - 6̣ 5̣ -- 〇
3 -- 2 3 - 3 - - 〇 6 - -- 5 -	
6 -- 1̣ 5 - 3 - - 〇 5 - 3 - 5 -	
1 - 6̣ - 1 -- - -- - 〇 6̣ 5̣ 3 5	
2 -- 〇 3̣ 2̣ 1 3 2 -- 〇 6 3 5 〇	
3 6 5 〇 3 5 -- 2 1 - 7 6 -- 〇	
6 3 5 - - 〇 6̣ 5̣ 3 5 2 - - 〇 3 5	
3 5 -- 2 1 - 7 6 -- 〇 6 3 5 〇	
6 1̣ -- 2 3 2 1 6̣ -- 〇 1 6̣ 1 -	
- 6̣ 1 〇 1̣ - 6 5 3 -- 2 3 -- -	
1̣ 6̣ 5 1̣ 6 -- 〇 5 6 5 6 5 〇 1 2	

四不像

上。一六。一尺上四尺上。尺
上四。乙合。乙四。四。五六。一
六。一六。五六。五五。仕仕五
六。一六。五仕。五五。一尺。一
五六。尺。尺。一六。尺。六。一
六。尺。一六。一六。一尺上。一
六。一尺上四尺上。尺上四
乙合。乙四。四。五六。一六。一
六。五六。五五。仕五六。一
尺。一六。一六。仕五六。一
一尺。一仕。五五。一尺。一五
六。六。一六。六。尺。六。一六。

上六上尺上尺上上。上尺
 上六尺上六。上上六尺上。
 上六六。上上六上上尺
 上五六。上上六上上尺
 上尺五六。上上尺上尺上
 五六。上上尺上尺上五六。
 上上尺上上尺上。上上六
 尺上。上五六上上尺上尺
 上五六。上上尺上尺上五
 上。上上尺上尺上五六。上

上 四 尺 上。	上。 六 五 六 六 五 六。 尺 上 四 尺	上。 五 上。 五。 尺 上 四 尺	上。 五 六。 尺 上 四 尺 上。 上。	上。 四 尺 上。 四 上 尺 六	上。 五 六。 六 上 尺 上。 上 尺	上。 六 六。 上。 五 六 上。 五 五 二	上。 六 六。 上。 六 上 六 六 上 五	上。 六 上 六 六 上 六 上	上。 五 六 上。 五 上 上 尺 上 五 六。
-------------------	---	---	---	--	--	--	---	---------------------------------------	--

最終曲。

付点のついた資料がなく、近世譜および数字譜は筆者による翻譜。

同じ『清風雅譜』に収録されたものでも、刊行年代や版によって曲譜が異なり、構成の違う複数のヴァージョンが存在する。ここにとりあげた17年版は、刊行された譜集ではよく引用されるヴァージョン。明治の溪派内ではこれとは別の、溪蓮斎訂正以降の三国志「瀟陵別」の曲としてのヴァージョンが一般的であったようだ。

01	尺---	工---	上-四上	尺--○	//10にあたる間奏ナシ//	17b'	六-工-	工---	尺工-	仕-五-
	五--	尺---	上六五	六--○	11A		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	四-四上	尺--○	五--	六--			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工六五	六--○	尺-工六	尺--○	11B		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工六六工	尺--○	工五六工	尺--○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	五-五-	仕-五六	仕---	--○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	五--	五-工-	尺-工五	六--○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	上-工六	尺--○	尺六六尺	工--○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	尺-上四尺	上--					六-工-	工---	尺工-	尺工-
02			尺 上尺上-	四尺上-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	-○						六-工-	工---	尺工-	尺工-
03	五-	--六-	工-六-	五-仕-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	--	-○五-	--五-	工-尺-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工五六	-○上-	工六尺-	-○尺-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工六尺-	--工六	工尺上-	-○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
04			工六		//12にあたる間奏ナシ//		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工尺上-	-○工六	工尺上-	-四尺-	13A		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	上--○	尺---	上-四-	-乙合-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	-乙四	四--○	五--	六-工六			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工六五	-六五-	五--○				六-工-	工---	尺工-	尺工-
05			仕-五-		13B		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	六-工-	六-五-	仕---	--○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	五--	五-工-	尺○工五	六--○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	尺-尺工	六-尺-	尺--○	六-工六			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	尺工六-	-○					六-工-	工---	尺工-	尺工-
06		工六	工尺上-	-○工六	//14にあたる間奏ナシ//		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工尺上-	-四尺-	上--○	尺---	15		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	上-四-	-乙合-	-乙四	四--○			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	五--	六-工六	工六五-	-六五-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	五--○						六-工-	工---	尺工-	尺工-
07		仕-五-	六-工-	工---			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	尺工六-	-工六-	六--○	仕-五-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	六-工-	工-尺-	工-仕-	--			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	-○五-	--五-	工-尺-	工五六			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	-○六-	工-六-	六-尺-	-六工-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	工--○						六-工-	工---	尺工-	尺工-
08		六-工六	工尺上-	-尺上-			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	上--○						六-工-	工---	尺工-	尺工-
09		工-尺-	工--○	六-尺工	17C		六-工-	工---	尺工-	尺工-
	六--○	工工六尺	上--○	六-尺工			六-工-	工---	尺工-	尺工-
	六--○						六-工-	工---	尺工-	尺工-

四不像(スウポスヤン)

3

01 2---|3---|1-61|2--O|
 6---|5---|356-|5--O|
 6-61|2--O|6---|5---|
 356-|5--O|2-35|2--O|
 3553|2--O|3653|2--O|
 6-6-|1-65|1---|---O|
 6---|6-3-|2-36|5--O|
 1-35|2--O|2552|3--O|
 2-162|1--
 02 2|121-|621-|
 -O
 03 6-|---5-|3-5-|6-1-|
 ---|O6-|---6-|3-2-|
 365-|O1-|352-|O2-|
 352-|---35|321-|-O
 04 35|
 321-|-O35|321-|-62-|
 1--O|2---|1-6-|-75-|
 -76-|6--O|6---|5-35|
 356-|-56-|6--O|
 05 1-6-|
 5-3-|5-6-|1---|---O|
 6---|6-3-|2O36|5--O|
 2-23|5-2-|2--O|5-35|
 235-|-O
 06 35|321-|-O35|
 321-|-62-|1--O|2---|
 1-6-|-75-|-76-|6--O|
 6---|5-35|356-|-56-|
 6--O|
 07 1-6-|5-3-|3---|
 235-|-35-|5--O|1-6-|
 5-3-|3-2-|3-1-|---|
 -O6-|---6-|3-2-|365-|
 -O5-|3-5-|5-2-|-53-|
 3--O|

08 5-35|321-|-21-|
 1--O|
 09 3-2-|3--O|5-23|
 5--O|3352|1--O|5-23|
 5--O|
 //10にあたる間奏ナシ//
 11A 1-6-|5-3-|3---|
 235-|5--O|
 11B 1-6-|5-3-|
 3-23|1---|---O|6---|
 6-3-|2-36|5---|6536|
 5---|3563|5-5-|-O
 11C 1-|
 6-5O|3-3-|235-|-O
 11D 1-|
 6-5-|5---|3-3-|-O5-|
 3-2-|3-32|1--O|3-3-|
 235-|-O
 //12にあたる間奏ナシ//
 13A 3-|3---|5-5-|
 ---|3-6-|5-5-|-O3-|
 5-6-|3-5-|---O|235-|
 --6-|3-5-|5--O|
 13B 1-6-|
 5O3-|321-|-O33|521-|
 -O3-|321-|-O
 //14にあたる間奏ナシ//
 15 1-|6-5-|
 3-3-|235-|-O5-|3---|
 6-5-|--6-|5--O|565-|
 5-2-|-53-|3--O|
 16 5-35|
 321-|-21-|1--O|

17A 3-2-|
 3---|5-5-|--2-|-35-|
 -35-|5--O|3-5-|3-6-|
 5-5-|--3-|3---|3-6-|
 5--O|
 17b 1-6-|5-3-|3---|23--|
 -26-|5--O|3-3-|--23|
 ---2|3---|6-5-|-O3-|
 3---|23--|-23-|--6-|
 5--O|
 17C 5-3-|2---|3-32|
 1--O|3352|1--O|
 17b' 1-6-|
 5-3-|3---|23--|-23-|
 --6-|5--O|3-3-|--23|
 ---2|3---|6-5-|-O3-|
 3---|23--|-23-|--6-|
 5--O|
 //18にあたる間奏ナシ//
 19A 1-6-|5-1-|---|
 -O6-|---6-|3-2-|365-|
 -O3-|5-3-|5-5-|3-5-|
 3-5-|3-6-|5-5-|-O[3-|
 5-3-|5-5-|--3-|6-5-|
 5--O|]
 19B 1-|6-5-|
 1---|---O|6---|6-3-|
 2-36|5--O|5-3-|2-3-|
 3---|2-3-|--2-|3---|
 2-1-|---O|6-61|2---|
 5-6-|5--O|2-3-|2-1-|
 6-2-|1---|-O1-|1-6-|
 1---|6--O|2-3-|2-1-|
 621-|---O|5-6-|5---|
 5-6-|5--O|2-3-|2-1-|
 621-|---O|